

和仏法律学校講義録

著者	赤司 鷹一郎, 掛下 重次郎, 松岡 義正, 若槻 禮次郎
出版者	和仏法律學校
巻	2
号	号外の3
ページ	1-53
発行年	1902-03-10
URL	http://hdl.handle.net/10114/4773

和佛法律學校

講義錄

第貳部

號外之參

商法商行為 (自五五至六六) 法學士赤司廣一郎

商法海商 (自九三至九九) 法學士掛下重次郎

破產法 (自二七三至三二三) 法學士松岡義正

現行租稅法論 (自三四八至三四八) 法學士若槻禮次郎

090
1900
2-2-3

二 債務者ヲシテ證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルノ權但此權利ヲ行使

第十二節 留置權

留置權ハ質權ト酷ク類似スルモ而モ此二者ヲ混同スヘカラス民法ノ規定ニ依
レハ留置權者カ其權利ヲ行使スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(民法第
二九五條)

(一) 他人ノ物ヲ占有スルコト

(二) 其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルコト

(三) 未タ其債權ニ付キ辨濟ヲ受ケサルコト

留置權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ場合ハ債務者ノ所有スル物ト債權者ノ債權ト
カ必ス一定ノ關係ニ在ルコトヲ要ス然ルニ商業取引ヲシテ確實安全ナラシム
ルニハ其取引ノ擔保ヲ確實ナラシムルヲ可トス故ニ商法ニ於テハ民法ノ規定
ニ反シテ留置權ノ範圍ヲ擴張スルノ主義ヲ採リ商法ニ於ケル質權ノ規定ト相

待チテ以テ取引ヲシテ確實ナラシメタル期ニ至リ今商法ニ於ケル留置權行使ノ必要條件ヲ舉ゲレハ左ノ如シ商法第二八四條

- (一) 當事者ノ雙方カ商人タルコト
 - (二) 其債權ハ當事者ノ雙方ニ對シ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタルコト
 - (三) 債權者ハ債務者トノ商行爲ニ因リテ債務者ノ所有物ヲ占有スルコト
 - (四) 辨濟期ノ到來シタルニ拘ラス未タ其債權ノ辨濟ヲ受ケタルコト
- 民法ノ規定ニ依レハ留置權ノ目的タル物ト債權トノ間ニハ或關係ヲ要ストモヲト雖モ商法ニ於テハ此等ノ關係ヲ必要トセス債權者ハ債務者トノ商行爲ニ因リ債務者ノ所有物ヲ占有スルコトキハ其所有物ト何等ノ關係ナキ商行爲ニ因リテ發生シタル債權ノ爲メニ其物ヲ留置スルコトヲ得ルモノナリ而シテ留置權者カ商法上ノ留置權ヲ行使スルニ付キ此他民法ノ規定ト異ナリタル二箇ノ條件ノ存スルコトヲ忘ルヘカラス其一ハ當事者雙方共ニ商人タルコトヲ必要トスルモノニシテ商人間ニ非タレハ商法上ノ留置權ハ存在スルコトヲ得ラルモノナリ其二ハ留置權ノ擔保スル債權ハ當事者雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲

ニ因リテ生シタルモノナルコトヲ要ス換言スレハ雙方の商行爲ナルコトヲ必要トスルモノニシテ其一方ニ對シテ商行爲ナクモ他ノ者ニ對シテハ商行爲タラサル場合ヲ包含セサルモノナリ

商法上ノ留置權ハ商取引ヲシテ確固ナラシメンカ爲メニ特ニ設ケラレタル制度ニシテ各商人ヲ保護セントノ主旨ニ出ツルモノナリ然レトモ商人間ニ於テ時トシテ商法上ノ留置權ノ適用ヲ受クルヨリハ民法上ノ留置權ヲ便トスルコトアリ此場合ニ於テ特別ノ明文ナクシハ當事者ニシテ商法所定ノ條件ヲ具備シタルトキハ必ス商法上ノ留置權ノ適用ヲ受ケルモノニシテ當事者ノ選擇ニ依リ自由ニ民法ノ規定ニ依ルコトヲ得スト解釋スルヲ穩當トス然レトモ此ノ如キ場合ニ於テ當事者ノ自由意思ヲ制限スル必要ナキヲ以テ商法第二百八十四條但書ニ於テ當事者ノ自由意思ヲ認メタリ

第十三節 時 效

本節ニ於テ單ニ時效ト題スルモ其實消滅時效ニ關スル規定ヲ説明ニ過キス民

法第百六十七條乃至第百七十四條ノ規定ニ於テハ債權ノ種類ニ依リ時効ヲ異
ニスト雖モ第百六十九條以下ノ規定ニ包含セラルル債權ニ非タルヨリハ其他
ノ債權ハ十年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキモノナリ然レトモ商業上ノ取引ニ於テ
ハ迅速ヲ尙フヲ以テ取立ツヘキ債權アラハ迅速ニ之ヲ取立ツヘキニ拘ラス之
ヲ拋却スルハ債權者ノ過失又ハ怠慢ト稱スルヲ得ヘク尙ホ商事ニ於テハ民事
ニ比シ權利ヲシテ長ク不確實ノ情態ニ在ラシムヘカラサルヲ必要アルヲ以テ
民法上ノ時効ヲ短縮セサルヘキヲス故ニ我商法ハ第二百八十五條ヲ以テ之カ
規定ヲ設ケ商行爲ニ因リテ生ジタル債權本法ニ於テ別段ノ規定アル場合ノ外
ハ五年間行使セサルニ因リテ消滅スルコトヲ明カニセリ且ツ本條ノ規定ハ可
成早ク權利ヲシテ確定ナラシメントノ主旨ニ外ナラサルヲ以テ他ノ法令中ニ
五年ヨリ短キ時効ノ定アル場合ニ於テモ猶ホ本法ノ規定ニ依リ五年ノ時効ニ
據リシメントスルハ其精神ニ於テ前後矛盾スルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ商
法第百八十五條但書ヲ以テ此場合ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第二章 買 買

買買ニ關スル精細ナル諸點ハ民法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニ贅セズト雖モ商
事ニ於ケル買買ナルモノハ民法ニ於ケル買買ト其性質ヲ異ニスルモノニ非
ズルカ故ニ商法ニ於テ買買ヲ論スルニ當リテハ勢ヒ民法ノ規定ヲ參酌スルノ必
要アリ予カ本章ヲ論スルニ當リテハ力メテ民法上ノ買買ニ關スル説明ヲ避ク
ヘシト雖モ間ニ枝葉ニ涉リテ論議スルノ已ムヲ得サルコトアリテ民法ヲ論議ト
重複スルノ嫌アルコトアルヘシ幸ニ諒セヨ

本章ヲ論スルニ當リテ左ノ三節ニ別テ説明スルヲ便宜トス

第一節 總論

第二節 買主ノ義務

第三節 買買契約ノ解除

第一節 總論

買買ニ關スル精細ナル諸點ハ民法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニ贅セズト雖モ商
事ニ於ケル買買ナルモノハ民法ニ於ケル買買ト其性質ヲ異ニスルモノニ非
ズルカ故ニ商法ニ於テ買買ヲ論スルニ當リテハ勢ヒ民法ノ規定ヲ參酌スルノ必
要アリ予カ本章ヲ論スルニ當リテハ力メテ民法上ノ買買ニ關スル説明ヲ避ク
ヘシト雖モ間ニ枝葉ニ涉リテ論議スルノ已ムヲ得サルコトアリテ民法ヲ論議ト
重複スルノ嫌アルコトアルヘシ幸ニ諒セヨ

本章ヲ論スルニ當リテ左ノ三節ニ別テ説明スルヲ便宜トス

第一節 總論

第二節 買主ノ義務

第三節 買買契約ノ解除

(第一) 定義 買賣ノ如何ナルモノナルヤハ民法第五百五十五條ノ規定スル所ナリ同條ニ依レハ買賣トハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉シ相手方ハ之ニ對シテ代金ヲ拂フコトヲ約スル契約ナリ此定義ニ從ヘハ買賣ノ目的物ハ必ズ財產權及ヒ代金ナラサルヘカラス苟モ財產權タルモノハ明カニ之カ讓渡ヲ禁止シタル場合ヲ除クノ外買賣ノ目的物ト爲ルヲ得タルモノナシ古來未タ債權ノ讓渡ヲ認メタル時代ニ於テハ買賣ノ目的物ハ財產權ナリト謂フハ廣キニ失スルノ嫌アリト雖モ我民法ハ原則トシテ債權ノ讓渡ヲ認メタルノミナラス著作權、專賣權等ノ如キ無形ノ權利ハ移轉ヲ認メタルカ故ニ廣ク財產權ナリト云フハ不當ノコトニ非ナルヘシ

又、對立ノ買賣ノ區別ハ、買賣ノ當事者ノ一方ハ財產權ヲ移轉シ相手方ハ反對給付トシテ金錢ヲ支拂ハサルヘカラス代金ナル觀念ハ買賣ニ缺クヘカラス所ニシテ之ニ由リテ雇傭交換請負等ト區別スルコトヲ得ヘシ而シテ代金トハ對價トシテ交付スヘキ金錢ヲ意味スルモノナリ故ニ或財產權ノ移轉ニ基キ相手方ニ對シテ金錢ヲ支拂フコトアリト雖モ對價トシテ支拂フニ非ナレハ買賣ト稱スルコトヲ得ス是レハ

擔附贈與ト異ナル所ナリ茲ニ注意スヘキハ代金ノ數量ハ必ズシモ契約當時ニ於テ定マルコトヲ要セス買賣契約ノ當時ニ於テ代價ノ數量ヲ確定セス更ニ後日ニ於テ第三者ヲシテ其價格ヲ定メシメ若クハ市價ニ應ジテ代金ヲ支拂ハント約スルカ如キハ毫モ賣買タルノ要件ヲ缺クモノニ非サルナリ

(第二) 性質 以上述べタル所ニ依レハ買賣契約ハ要素ハ(一)財產權(二)代金(三)合意ニシテ若シ其一ヲ缺クハ最早買賣契約ニ非タルナリ其目的時ニモ移轉時ニモ買賣契約ハ諾成契約ナリ諾成契約トハ單ニ當事者ノ意思ハ合致ス因リテ成立スルモノニシテ契約ノ成立ニ關シ何等ノ方式ヲ要セサルモノナリ諾成契約ナル語ハ羅馬法以來行ハルル所ニシテ書面契約口頭契約及ヒ要物契約ニ對峙スルノ語ナリ古來社會ノ幼稚ナル時代ニ於テハ舉證及ヒ公示ノ方法不完全ナルヲ以テ勢ヒ方式ニ重キヲ置カサルヲ得ス然レトモ今日世運ノ進步ニ伴ヒ舉證及ヒ公示ノ方法完備スルニ至リタハ方式ニ拘泥スルノ必要ナク隨テ今日ニ於テハ諾成契約ノミ行ハレ書面契約口頭契約及ヒ要物契約ハ僅ニ例外トシテ存スルノミ民法第五百五十五條ノ規定ヲ觀テ當事者ノ一方ハ相手方ニ對

シ財産權ヲ移轉シ相手方ハ之ニ對シテ代金ヲ拂フヨリ約スルニ因リ其效力ヲ生ズルモノニシテ別ニ物ノ引渡者タル書面ノ方式ヲ要セスシテ成立スルモノナルヲ故ニ其諾成契約タルコト明カナリ

(二) 買賣契約ハ雙務契約ナリ其契約ノ效果トシテ契約當事者雙方ニ對シ債務ヲ發生セシムルモノナリ民法第五百五十五條ニ依リ當事者ノ一方ハ財産權ヲ移轉シ相手方ハ代金ヲ拂フヘキモノナルヲ以テ多數ノ場合ニ於テハ其雙務契約ナルコト疑ナシト雖モ特定物ノ賣買ト雖モ必ス先ツ債務ヲ發生シ權利ヲ移轉スルノ義務ヲ生ズルモノナリ唯其目的物ニシテ特定物ナルトキハ債權ヲ發生ト共ニ其目的物ニ關スル權利ノ移轉ハ履行セラレタレバ過キス且ツ賣主ハ此他目的物ノ引渡ノ義務及ヒ擔保ノ義務アルニ於テハ其雙務契約タルコトハ多辯ヲ要セスシテ明カナリ

第二節 買主ノ義務

既ニ述ヘタル如ク買賣契約ハ雙務契約ナリ隨テ買主及ヒ賣主ノ雙方ニ對シ權利ヲ與ヘ義務ヲ負擔セシムルヲ原則トス而シテ買賣契約ノ效力トシテ生ズル權利義務ノ種類ハ數多アリト雖モ要ハ買主ヲシテ財産權ヲ取得セシメ賣主ヲシテ代金ヲ受取ラシムルニ在リ今主要ナル賣主及ヒ買主ノ義務ヲ舉クレハ

第一 賣主ノ義務

- 一 權利移轉ノ義務
- 二 權利ノ目的物アル場合ニ於テハ其引渡ノ義務
- 三 權利ノ目的物アル場合ニ於テハ其保存ノ義務
- 四 擔保ノ義務
- (二) 權利移轉ノ義務トハ買賣契約ノ最も主要ナル效力ノ一ニシテ買主ノ主トシテ目的トスル所ノモノナリ賣主ニ權利移轉ノ義務アルコトハ民法第五百五十五條ノ豫想スル所ニシテ賣主ハ其權利ヲ移轉スルニ付キ必要ナル行為ヲ爲スノ義務アルモノナリ
- (二) 目的物引渡ノ義務ハ買賣契約ニ目的物アル場合ニ於テ始メテ存在スル

(二) 目的物保存ノ義務ハ民法第四百條ノ規定スル所ニシテ賣主ハ其目的物ヲ

(四) 擔保ノ義務ハ民法第五百六十一條以下ノ規定スル所ナリ賣主ハ買主ニ對

カラス而シテ賣主カ其擔保ノ責ニ任スヘキ場合ハ買主ノ義務ヲ免ルベシトモ、
賣主カ賣買ノ目的タル權利ヲ完全ニ移轉セサルニ因リテ賣

主ノ權利ニ欠缺ヲ生スル場合ニ於テ發生スル義務ニシテ賣主ノ義務不履

(乙) 瑕疵擔保 賣主ハ買主ニ對シテ完全ナル目的物ヲ移轉スヘキ義務アリ

モノトス然ルニ買主ニ對シテ瑕疵アル物件ヲ移轉セタルトキハ其物件轉
轉ノ義務ヲ履行セサルモノニシテ買主ニ對シテ責任ヲ負擔セサルヘカ

此義務ヲ稱シテ瑕疵擔保ノ義務ト謂フ。其重點ハ債務關係ノ買主ノ應

第一 代金支拂ノ義務 一 年内ニ其恩恵大ニ聯合ニ結ビテ獎勵ノ日又ハ一年內

(一) 代金支拂ノ義務 買主ハ賣主ニ對シテ代金ヲ支拂フノ義務アルコトハ賣主買主ノ性質ニ伴フモノニシテ代金支拂ノ時期及ヒ場所等ニ關シテハ商士

第二百七十八條及第二百八十三條ノ外民法ノ通則ニ從フヘキモノナリ

(二) 目的物ヲ受取ルノ義務 賣主ハ契約ニ定メタル時期、買主ヨリ請求ヲ受ケ

於履行ヲ受クルノ義務アルモノナリ若シ賣主カ目的物ヲ受取ルコトヲ爲
セザルニキハ賣主ハ其目的物ヲ供託シテ其義務ヲ免レ若クハ其目的物ヲ提

供シテ買主ヲ遲滞ノ責ニ任セシムルコトヲ得。但シ其責ハ其自前部セシ
以上ヲ以テ民法ノ規定ニ依ル買主及ビ買主ノ主要ナル義務ヲ略述セリ。是ヨリ
更ニ歩ヲ進メテ商法ニ於ケル民法ノ規定ノ例外ヲ説カントス。先ハ其特異ニ
（一）擔保ニ關スル規定。民法第五百六十三條第五百六十五條及ヒ第五百七十
條ノ規定ヲ觀ルニ目的物ニ瑕疵アルトキ又ハ其數量不足ナル場合ニ於テハ買
主ハ賣主ニ對シテ契約ヲ解除シ若クハ代金減額又ハ損害賠償ヲ請求スルコト
ヲ得ヘシ。而シテ買主カ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲ス
コトヲ得ヘキ期間ハ民法第五百六十四條ニ依リ買主カ善意ナル場合ニ於テハ
事實ヲ知リタル日ヨリ一年內ニ其意思ナル場合ニ於テハ契約ノ日ヨリ一年內
ニ行使セサルヘカラス然レトモ此ノ如キハ權利ヲシテ永ク不確定ナル狀態ニ在
ラシメ且ツ取引ノ安全ヲ妨クルノ虞アルカ故ニ其權利ノ行使ニ付キ買主ヲ制
限スルハ其宜キヲ得タルモノナリ。乃チ商法ハ第二百八十八條第一項ヲ以テ商
人間ノ買賣ニ限り買主ハ其目的物ヲ引渡ヲ受クルヤ否直チニ其目的物ヲ検査
スルノ義務ヲ負擔セシメ而シテ若シ其目的物ニ瑕疵アルコト又ハ數量ニ不足

以上ハ船長カ法律上負フ所ノ義務ナリ。然レモ海關稅關等機關ニ對シテハ
○船長ノ權限。第五百六十六條。船舶港外ニ於テハ船長ハ航海ヲ爲スルニ必要
ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス。船舶港外ニ於テハ船長ハ
特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ヲ有ス。有
ス。商法第八六三條。佛商法第二二三條。第二二三條。獨商法第四九五條。第四九
六條。以上ハ船長ノ權限ニ關スル規定ニ屬ス。然レモ船長ノ權限ハ其自前部セシ
船長ハ前ニ列舉シタル義務及ヒ其他ニ規定シタル至重ノ義務ヲ盡ス爲メニハ
之ニ伴フヘキ相當ノ權限ヲ有セサルヘカラス。而シテ船長ノ權限ハ各國ノ立法
同一ナラス。佛法系ノ商法ニ於テハ船舶所有者ノ居住ノ地ト否トニ依リテ之ヲ
區別シ其居住ノ地ニ在リテハ船長ハ船舶所有者ノ承諾ナクシテ總テ行爲ヲ爲
スノ權限ナシ。獨商法ニ於テハ船長カ船舶港外ニ在ルト否トニ付キ區別ヲ爲セリ。
英法ニ於テハ行爲ノ種類ニ依リテ之ヲ區別シ或通常ノ行爲ハ船長ハ船舶所有者
ト同所ニ居ルト否トヲ問ハス其承諾ナク之ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シ或重
要ナル行爲ハ必ス其承諾ヲ要スルモノト爲シ我舊商法ニ於テハ船長ハ船舶

港ノ内外ヲ問ハス原則トシテ海員ノ雇入乗組員ノ編成船舶ノ修繕展費及ヒ運送契約ヲ取結フコト等ノ權限ヲ有スルニ此等ノ行為ヲ爲スニハ船舶所有者又ハ其代人ノ指揮ニ從フコトヲ要スト爲シタルカ故ニ船長ハ船舶所有者ノ指揮ナキトキハ其船舶及ヒ航海ニ關スル事項ハ之ヲ獨斷エテ處分スルコトヲ得ヘシ然レトモ船舶所有者ノ指揮アルトキハ總之ニ從ハサルヘカラサルナリ而シテ右ノ佛法ノ如クスルトキハ船舶所有者ノ居住ノ地ハ常ニ變動シ易ク且タ第三者ハ之ヲ知ルコト頗ル難キカ故ニ船舶所有者ノ居住ノ地タルト否トハ使テテ區別ヲ爲スハ不可ナリ又英法ノ如ク行為ノ種類ニ依リテ區別スルコトト爲ストキハ或場合ニ於テ行為カ就レニ屬スルカラ區別シ難キコトアルノミナラス重要ナル行為ハ必ス船舶所有者ノ承諾ヲ得サルヘカラストモハ不便ニ堪ヘナルコト多カルヘシ我舊商法ノ如ク總テノ行為ニ付キ船長カ船舶所有者ノ指揮アリタルトキハ之ニ從フコトヲ要スルモノト爲ストキハ第三者ハ船舶所有者ノ指揮アリタルヲ知ル能ハサルコトアリ故ニ新法ハ此等ノ立法例ヲ採用セシテ獨法ニ模倣シ船舶港ノ内外ニ依リテ區別ヲ爲シ船長ハ船舶港外ニ於

テハ航海ノ爲メ必要ナル一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有シ船舶港内ニ於テハ海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ヲ有スルニ止マリ其他ノ行為ニ付テハ船舶所有者ヨリ特ニ委任ヲ受ケサルヘカラサルモノト爲セリ而シテ此ノ如ク船長ノ權限ヲ船舶港ノ内外ニ依リテ區別スルトキハ船舶港ハ一定シテ容易ニ變動セス第三者ハ能ク之ヲ知ルヘク船舶所有者カ會社タル場合ニ於テハ船舶港ニハ多クハ本店若クハ支店ヲ有スヘクレハ此區別ハ最も實際ニ適宜ナルカ故ニ新法ハ此主義ヲ採用シタルナリ

船舶港内ニ於テハ船舶所有者若クハ其代人在リテ航海ニ關スル事ヲ辦スヘク若シ船舶所有者在ラサルトモ事ヲ辦スルニ足ル模様ヲ計リアルコト多ク而シテ豫メ其計畫ナキトキハ船長カ行為ヲ爲ス毎ニ特ニ船舶所有者ノ委任ヲ受ケルトモ左程甚キニ都合ヲ見ルコトアラサルナリ是ヲ以テ船舶港内ニ於テハ船長ニ重大ナル權限ヲ與ヘ之ニ行為ヲ爲サシムヘキ必要アラサレトモ海員ノ雇入及ヒ雇止ニ付テハ法律ハ特ニ之ヲ船長ノ權限ト爲セリ是レ他ナシ海員ヲ選擇シ又ハ之ヲ解僱スルハ船長ハ最も適當ナル所ヲ決之ニ其權限ヲ委スル

ハ最モ便宜多ク且ツ海員ハ總シ船長ノ指揮監督ヲ下ニ在ルヘキ者船員法第三條ニシテ其不法行為ニ付テハ船長カ責任ヲ負フヘキコトアル第五五九條ニ船船所有者者カ隨意ニ不適當又ハ不品行ナル海員ヲ雇入レ又ハ適當ナル者ノ備ヲ解クモ船長ハ之ヲ如何トモスルコト能ハスシテ仍ホ忍ビテ指揮監督セザルヘカラザルモノトスルハ甚タ其當ヲ得ザレハナリニ船長ノ責任ヲ負フモ船籍港外ニ於テハ船船所有者者ノ在ラサルヲ常トスルカ故ニ船船所有者者ハ自ラ航海ノ爲メニ必要ナル行為ヲ爲スコト能ハサレハ船長ヲシテ之カ權限ヲ有セシムルヲ便宜ナリトス汽車電信ノ如キ迅速ナル交通機關アル今日ニ在リテハ或ハ船船所有者者ヨリ此機關ニ依リテ一指揮ヲ爲スヲ以テ足レリトスルモノハ如シト雖モ場所ニ依リテハ電信ノ設クナキ所モアレハ船籍港外ニ於テハ船船所有者者ノ指揮ヲ待ツコトト爲スハ一般ニ不便ナリ若シ船長カ一船船所有者者ノ指揮ヲ待ツモノト爲ストキハ敏捷ヲ主トスル航海ノ目的ハ到底達スルコト能ハサルヘシ故ニ船籍港外ニ於テハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ船長ニ與ヘタルナリ例ヘハ船船ノ燃料乗組員ノ編成船船ノ修繕糧食ノ

準備及ヒ運送契約ノ締結等ニ關スル一切ノ法律行為換言スレハ航海ノ目的ヲ達スル爲メニ要スル事項ニ付テハ船船所有者者ヲ代表スルモノトス然レトモ船長ハ行為ノ重大ナルモノニ付テハ制限ヲ受ケ獨斷ニテ爲スコトヲ得サルモノナリ(第五六八條)

船長カ權限ヲ有スル行為ニ付テハ管ニ裁判外ノミナラス裁判上ニ於テモ亦船船所有者者ヲ代表シ總テノ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ從來ニ在リテハ船長ハ猶ホ支店ノ支配人カ主人ヲ代表スルカ如ク裁判外ニ在リテハ慣習上船船所有者者ヲ代表シテ取引ヲ爲シタレトモ訴訟行為ハ之ヲ爲スル權限ナク其行為ハ一船船所有者者カ自己ノ名義ヲ以テ爲ササルヘカザヤリシナリ而シテ船船所有者者ヨリ船長ニ特ニ訴訟委任ヲ爲シタリトモ民事訴訟法ノ規定第六三條ニ依リ區裁判所又ハ辯護士ノ在ラサル地方裁判所ニ限リ裁判所ノ許可ヲ得タル場合ノ外ハ船船所有者者ノ代理人トシテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得ザリシナリ然レトモ本條ノ規定ノ設ケラレタルカ爲メニ船長ハ船籍港外ニ於テハ法律上船船所有者者ノ代理人トシテ必要ナル訴訟行為ヲ爲スコトヲ得正ニ至レリ(支配

人ノ權限ニ關スル第三十條船船管理人ノ權限ニ關スル第五百五十三條參照見
レ過地ヲ主トスル商業ニ關シテハ最モ實際ノ必要ニ適シタル規定ナリ故ニ
○船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ノ效力ノ第五百六十七條船長ノ代理權ニ加
ヘタル制限ハ之ヲ以テ對シテ第三十條對航スルコトヲ得ス爾後商法第五〇〇
條
法律カ前條ノ規定ヲ以テ船籍港外ニ於テ船長ニ與ヘタル權限ハ船船所有者ハ
之ヲ船長ニ對シテ制限スルコトヲ得ヘシ例ヘハ金高一千圓以上ノ行為ヲ爲ス
ニ付テハ總テ船船所有者ノ指揮ヲ待タサルヘカラス又ハ支店ノ設置アル港
ニ於テハ航海ニ必要ナル行為ハ總テ支店ニ於テ之ヲ爲シ船長ハ之ヲ爲スヲ得
サルカ如キ制限ヲ爲ストキハ其制限ハ船船所有者ト船長トノ間ニ於テハ效力
ヲ有スルコトハ論ヲ俟タサルナリ而シテ此制限ハ船船所有者ト船長トノ間ニ
止マルカ故ニ船長カ若シ此制限ヲ超越シタルトキハ船長ハ獨リ船船所有者ニ
對シテ責任アルノミ故ニ船長ノ行為ニ對シテ船船所有者ニ對シテ損害ヲ生シタル
トキハ船長ハ船船所有者ニ對シテ之ヲ賠償セサルヘカラスト雖モ船船所有者

ハ船長ト取引シタル第三者ニ對シテ責任ヲ有スルモノトス然レトモ此場合ニ
於テ若シ第三者ニ對シテ船長カ制限外ノ行為ヲ爲スコトヲ知レルトキハ船船所
有者ト船長トノ間ノ制限ハ此第三者ニ對シテモ效力ヲ生スヘシ法律ハ一般ニ保
護スヘキ理由アラサルナリ故ニ此場合ニ制限ノ效力ヲ生セサルハ善意ノ第三
者ニ限ルナリ今法律カ船船所有者カ船長ニ對シテ爲シタル制限ニ對シテ善意ノ
第三者ニ對シテ效力ヲ生セサルモノト爲セタルハ商業ヲ爲ス主人カ其支配人
ノ法律上ノ代理權ヲ制限セタル場合第三〇條第三項及ヒ船船共有者カ其管理
人ノ代理權ヲ制限セタル場合第五五三條第二項ト同シテ若シ善意ノ第三者
對シテ制限ノ效力ヲ生スルモノト爲ストキハ第三者ハ法律上ノ權限ヲ有スル
船長ノ名稱ニ信用ヲ置キ難ク取引ノ際一船長ノ權限ニ制限アルヤ否ヤヲ取
斷ヘタル上ニ非テレハ取引ヲ爲スコト能ハシテ安心スルコト能ハサルカ故
ニ船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ善意ノ第三者ニ對シタルコトヲ得ナリ
下爲シタル點及ヒ重要事項ニ對シテハ船長ノ職務ノ第五百六十八條船長ハ

○航海中船長カ重要事項ヲ爲スコトヲ得ル權限——第五百六十八條 船長ハ船
 船ヲ修繕救授又ハ救助ノ費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支拂スル
 爲メニ非テ左ニ掲グタル行爲ヲ爲スコトヲ得ル。一 船長ハ船中ニ在リテ
 一 船船ヲ抵當ト爲スコトヲ得ル。二 船長ハ船中ニ在リテ
 二 借財ヲ爲スコトヲ得ル。三 船長ハ船中ニ在リテ
 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ買入スルコトヲ得ル。但第五百六十五條第一項
 ノ場合ハ此限ニ在ラス。四 船長ハ船中ニ在リテ
 船長カ積荷ヲ賣却又ハ買入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達
 スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム。但其價格中ヨリ支拂フ
 コトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス。舊商法第八七二條佛商法第二三
 四條獨舊商法第四九七條第五〇四條。五 船長ハ船中ニ在リテ
 船長ノ權限ハ既ニ第五百六十六條ニ付キ叙述シタルカ如ク船籍港外ニ於テハ
 航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ其權限ハ航海ノ
 爲メニ必要ナルモノニ限ラルモノニシテ航海ノ用ニ供スルニ足ル船船ヲ賣却

スルカ如キハ全ク航海以外ノ事項ニ屬スルヲ以テ之ヲ其權限ニ屬セシメス。然
 レトモ船船カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ之ヲ賣却スルコトヲ得
 ヘキ場合アリ(第五七〇條)而シテ船長ハ船籍港外ニ在リテハ航海ノ爲メニ必要ナ
 ルニ於テハ一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ亦餘リ重大ナル行爲ヲ如何
 ナル場合ニ於テモ其獨斷ニテ爲スコトヲ得ルモノト爲ストキハ船船所有者ハ
 利益ヲ害スルコトアルヘキヲ以テ一面ニ於テハ重大ナル權限ヲ與フルト同時
 ニ亦一面ニ於テハ之ヲ制限セサルヘカラス。故ニ船長カ左ニ掲グタルカ如キ重大
 ナル行爲ヲ爲スコトヲ得サルニ於テハ到底航海ノ目的ヲ達スルコトヲ得サル
 ヲ以テ之ヲ權限ニ屬セシメタリ。然レトモ其行爲ハ船船ノ修繕救授又ハ救助ノ
 費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支拂スル爲メニ非テハ爲スコト
 ヲ得サルモノト爲セリ。船長ハ其權限内ニ在リテ船船ヲ抵當ト爲ストキハ若シ之ヲ抵當ト爲シテ擔
 保シタル債權人辨濟ヲ爲スコト能ハサルトキハ就賣セタルカ如キ重大ナル結
 果ヲ生スルモノナル故ニ右ノ如キ必要ナル場合ニ非テハ船長ハ船船ヲ抵

當ト爲スコトヲ得サルナリ。又、船長カ法律カ必要ト認メタル場合ニ於テ船舶ヲ
 在ニ一ノ注意スヘキコトアリ。船長カ法律カ必要ト認メタル場合ニ於テ船舶ヲ
 抵當ト爲シタルトキ第三者タル債權者ハ船舶所有者ニ對シテ抵當權ヲ主張ス
 ルコトヲ得ヘキヤ。若シ船長カ其權限内ニ於テ船舶ノ航海ニ關シテ船舶所有者
 ノ爲メニスルコトヲ示シテ船舶ヲ抵當ト爲シ第三者ハ船長カ正當ニ其權限ニ
 基キテ爲スモノト信シテ抵當權ヲ取得シタルトキハ船舶所有者ハ民法第九十
 九條ノ規定ニ從ヒ第三者ニ對シテ責任ヲ負ハサルヘカラサレトモ其他ノ場合
 ニ於テハ獨リ船長ハ第三者ニ對シテ責任ヲ負フニ止マリ船舶所有者ハ之カ責
 任ヲ負フヘキモノニ非サルコト是ナリ。
 (二) 借財ヲ爲スコト 借財モ船舶所有者ニ重大ナル影響ヲ生スルヲ以テ船長カ
 一面ニ於テハ權限ヲ有シ他ノ一面ニ於テハ制限ヲ受タル行爲ノ中ニ加ヘタリ。
 (三) 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト 船長ハ或場合ニ積荷ヲ處分
 スルノ權限ヲ有シ亦之ヲ適當ニ處分スヘキ義務ヲ負フコトハ第五百六十
 五條ニ於テ叙述シタルカ。船長カ此處分ヲ爲スハ積荷ノ利害關係人ノ代理人タ

ル資格ヲ有シ然ルナリ今茲ニ積荷ノ處分ハ船舶所有者又ハ船舶賃借人ノ代
 理人タル資格ヲ以テ之ヲ爲スニ在リ蓋シ財產ハ其所有者ニ非サレハ隨意ニ之
 ヲ處分スルコトヲ得サルヲ以テ通例トスト雖モ航海中ニ在リテ船舶ノ修繕救
 助又ハ救授ノ費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル場合ニ於テ
 ハ特ニ便法ヲ設クルニ非サレハ之カ爲メ航海ノ目的ヲ達スルコト能ハサルノ
 ミナラス勳モスレハ船舶ヲ擱棄セサルヲ得サルニ至ルヘシ故ニ法律ハ此場合
 ニ於テハ船舶所有者ニ屬セサル所有物ト雖モ船舶所有者ノ爲メニ之ヲ賣却シ
 又ハ質入スルコトヲ船長ニ許シタリ是レ民法第二百六條ニ所謂所有者ハ法令
 ノ制限内ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ストア
 ル法令ノ制限シタル場合ニ該當スルモノナリ而シテ船長カ積荷ノ利害關係人
 ノ爲メニ第五百六十五條ノ規定ニ依リテ積荷ヲ處分スルハ之ヲ處分スルノ必
 要ヲ生シタル場合ニ於テ爲スモノニシテ法律ハ豫メ其場合ヲ定メタルヲ以テ
 船長カ之ヲ處分スルハ本條第一項ノ如キ場合ニ限ラサルナリ故ニ之カ注意
 爲メ本條ニ但書ヲ加ヘタルナリ。

船長カ積荷ヲ賣却シ又ハ賣入シタルトキハ其利害關係人ニ對シテハ之カ賠償
ヲ爲ササルヘカヲサルコトハ論ヲ埃ダス雖モ其賠償スヘキ價額ハ之ヲ處分
シタル地及ヒ時ニ於ケルモノニ依ルヘキヲ勝タ其他ノ地及ヒ時ノ價格ニ依ル
ヘキヤ本法ハ之ヲ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陽揚港ノ價格ニ依リテ
之ヲ定ムルコトヲ爲セリ例ヘハ神戸ヨリ香港ヲ石炭ヲ運送スルニ當リ其中
間ノ港タル上海ニ於テ船舶カ修繕費ニ充タルカ爲メニ船長カ石炭ヲ賣却シタ
ルトキハ積荷ノ利害關係人ニ賠償スヘキ額ハ上海ニ於ケル石炭ノ價格ノ高キ
ト低キトヲ問フコトナシ船長カ之ヲ處分セザリシニ於テハ香港ニ到達スヘカ
リシ時ニ於ケル其地ノ價格ニ從フヘキナリ而シテ香港ニ於ケル價格中ニハ上
海香港間ノ運送賃ヲモ包含スレトモ此場合ニ於テハ船舶所有者ハ第六百十七
條第一項第一號ノ規定ニ從ヒ船荷港ヨリ陽揚港ヲテ運送賃全額ヲ請求スルコ
トヲ得ルカ故ニ上海香港間ノ運送賃ハ控除セサルナリ然レトモ積荷ヲ香港ニ
陸揚スルニ於テハ同港ニ於テ支拂フコトヲ要スヘキ輸入税其他ノ費用ハ香港
ニ於ケル積荷ノ價額中ニ包含スルヲ以テ此等ノ費用ハ其價額中ヨリ控除セザ

ヘカラス此ノ如クスルトキハ積荷ノ利害關係人カ受タル賠償ハ相當ニシテ不利益ヲ被ルコトナキモノト看做サルルヲ以テ積荷ノ到達スヘカリシ地及ヒ時ニ於ケル價格ニ依リテ定ムヘキモノト爲シタルナリ

船長カ本條ノ規定ニ從ヒテ負擔シタル義務ハ第六百八十條第一項第五號救援又ハ救助ノ費用及ヒ第六號航海繼續ノ必要ニ因リテ生ジタル債權ニ該當シ其債權者ハ船舶及ヒ其運送貨等ノ上ニ先取特權ヲ有スルモノトス

救助及ヒ救援ナル意義如何ノ救助及ヒ救援ナル語辭ハ舊商法及ヒ新商法中歸所ニ散見スル所ニシテ舊商法ニ於テハ

第八百四十九條第四號ニ救援、救擄、其他救助ニ付テノ費用云云

第九百二十六條ニ旅客ヲ救助スル云云

第九百三十七條ニ救助セラレタル船舶、又ハ積荷、カ其後喪失シタル云云

第九百三十九條ニ棄却シタル貨物カ海損割戻ノ後所有者ニ返リタルトキハ其所有者ハ救助ノ費用云云

第九百四十三條ニ海難ニ於テ乗組員ノ船舶ヲ退去シ又ハ擄奪シタルトキハ

南法海關船員船長

下ニルヲ救フノ義、救助トハ既ニ危難ニ遭ハルモノヲ救フノ義ナリ。前ニ掲ケタル船員法第二十一條ニ救、授、ナル語辭アルハ立法者カ右ノ意義ヲ以テ之ヲ用ヒタルコトヲ見ルニ足ル。舊商法ニ用ヒタル救、授、救助ナル語辭モ右ト同一ノ意義ニ外ナラサルナリ。獨逸商法ハ其第七百四十二條以下ニ海難ニ於ケル救、授、及ヒ救助ノ事項ヲ詳細ニ規定シ其間區別アラザレトモ我新舊商法ニ於テハ別ニ法律上之カ區別ヲ規定セザレトモ救、授ノ場合ハ既ニ述ヘタル如ク未タ全ク危難ニ陥ラサルカ故ニ其船舶積荷等ハ船長ノ占有ニ係リ第三者ノ占有ニ移ラスト雖モ救、助ノ場合ニ於テハ既ニ危難ニ陥リタル場合ナルカ故ニ或ハ船員カ船舶又ハ積荷ヲ拋棄シ既ニ其占有ヲ離レタルコトモアルヘシ故ニ此場合ニ於テ之ヲ救助シタルトキハ殆ト先占ニ等シキ場合タルコトアルヘクレトモ救、授ノ場合ニ於テハ然ルコトアラサルヘシ。

○船長カ航海ノ爲メニ立替ヘ支辨シタル費用又ハ負擔シタル債務——第五百六十九條——船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得獨商法第五〇一條ニ

船長カ第五百六十八條ノ規定ニ從ヒテ之ニ掲ケタル費用ヲ支辨セシテ自身ニ費用ヲ出シ又ハ債務ヲ他ヨリ負擔シテ航海ノ爲メニ支辨ヲ爲スコトアリ而シテ此場合ニ於テハ特ニ船舶所有者ノ委任ヲ受ケテ自ラ費用ヲ立替ヘ又ハ他ヨリ債務ヲ負擔スルコトアリ又ハ特ニ其委任ヲ受ケスシテ此ノ如キ行爲ヲ爲スコトアリ其船舶所有者ノ特別委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ船舶所有者自身ニ船長ヲシテ費用ヲ代償セシメ又ハ自身ニ他ヨリ債務ヲ負ヒタルト一般ナレハ其債務ハ船舶所有者之ヲ引受ケ船長又ハ其他ノ債權者ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フヘキコトハ論ヲ竣タサルナリ然レトモ船長カ船舶所有者ノ委任ナクシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出シ又ハ債務ヲ他ヨリ負擔シタルトキ若シ不當ノ利得又ハ事務管理ノ原則ヲ以テ論シ得ヘキトキハ船舶所有者ハ之ヲ船長ニ償還セサルヘカラサルモノニシテ其償還スヘキ債權ニ付テハ無限責任ヲ負フヘキモノノ如シト雖モ本法ハ民法ノ普通原則ニ從ハシメスシテ此場合ニ於テハ船長カ自ラ出シタル費用及ヒ船長カ船舶所有者ノ爲メニ負擔シタル債

務ハ船舶所有者之ヲ全額ニ對シテ責任ヲ負ルモノト爲スルヲ以テモ此場合ニ於テハ船舶所有者ガ第五百四十四條ノ規定ニ依リテ有ルカ如キ委付權ヲ之ニ與ヘタリ蓋シ此場合ニ於テ船舶所有者ニ無限ノ責任ヲ負ハルモノハ甚ダ酷ニ失スルヲ以テ右ノ如ク規定セラルモ是レ船長ノ爲メニ常ニ不利益ナリト云フヲ得ス何トナレハ船長カ此規定ニ依ラズシテ民法ノ普通ノ原則不當ノ利得事務管理ニ從フトキハ右ニ叙述スルカ如ク償還ヲ受クヘキモノニ付テハ船舶所有者ニ對シテ無限ニ責任ヲ負ハルモノト雖モ船舶所有者ガ利益ヲ受ケタル限度又ハ必要ノ費用ノ外ハ排濟ヲ受クルコトヲ得ナルニ反シ此場合ニ於テハ船舶所有者ガ委付權ヲ行ハサルニ於テハ此權利ヲ行フトモ全額ノ償還ヲ受クルコトアリ船長ノ出タル費用又ハ他ヨリ負擔シタル債務全額ノ償還ヲ受クルコトヲ得レハナリ

○船舶ヲ競賣シ得ルコト 第五百七十條 船舶港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハタルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得舊商法第八三六條佛商法第二三七條獨商法第四九九條

普通ノ場合ニ在リテハ船長ハ船舶所有者ノ特別委任ナキニ於テハ船舶ヲ賣却スルコトヲ得ス何トナレハ船長ハ航海ヲ爲スニ必要ナル事項ニ付テハ廣汎ナル權限ヲ有スト雖モ航海ノ用ヲ爲ス船舶ヲ賣却スルコトキハ爾後航海ト關係ヲ有セス又船舶所有者ノ爲メニ船舶ヲ利用スルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テナリ然レトモ若シ船舶カ航海中海難其他ノ原因ニ由リ修繕スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ最早此船舶ヲ以テ航海ヲ繼續スルコト能ハサル場合ナルヲ以テ船長ノ本來ノ權限ハ茲ニ消滅スヘシト雖モ船舶港外ニ在リテハ船舶所有者又ハ其代人ナキヲ常トスルカ故ニ船舶ヲ適當ニ處分スル者アラサルヲ以テ此場合ニ於テハ船長カ船舶ヲ賣却スルコトヲ得ルモノト爲セリ而シテ船舶ヲ賣却ハ船舶所有者ノ爲メニ重大ナル關係ヲ有スルカ爲メ法律ハ四箇ノ條件ヲ具備スルコトト爲シタリ即チ(一)船舶港外ナルコト(二)船舶港ニ於テハ據ニ説キタルカ如ク第五六六條船長ハ海員ノ雇入及ヒ雇止ノ權限ヲ有スルニ止マテ其他ノ行爲ニ付テハ權限ヲ有セス此場合ニ於テハ船舶所有者又ハ其代人ニ於テ船舶ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スヘキ故ニ船舶ヲ賣却スルヲ權限ヲ船長

ニ與アルノ必要アラサルナリ(二)船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタル場合
ニ限ル此場合ハ已ムヲ得サルヲ以テ船舶所有者ノ利益ノ爲メニ船長ニ之カ處
分ヲ委シタルナリ然レトモ若シ船舶カ修繕スルコトヲ得ルニ於テハ船舶所有
者ハ之ヲ修繕シテ利用スヘキヲ以テ船長ニ之カ處分ヲ委スヘキノ理アラサル
ナリ(三)船舶ハ必ス之ヲ競買ニ付スルコト任意賣買ヲ許ストキハ船長ト買主ト
カ通謀スルトキハ船舶所有者ノ爲メニ不利益ナル代金ニテ賣買ヲ爲スコト
アルヘシ之ニ反シテ競買スルトキハ多數ノ買主集マルヘケレハ隨テ高價ニ賣却
セラルヘキヲ以テ之ヲ競買ニ付スルコト爲シタリ(四)管海官廳ノ認可ヲ得ル
コト船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト定ムルコトヲ船長一己ノ
意見ニ委スルコト爲ストキハ船長カ或ハ故意ヲ以テ或ハ輕忽ニ思料シテ船
舶ヲ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト爲シ之ヲ競買スルコトアルヘシ
シテ船舶所有者ノ利害ニ關スルコト尠ナラサルナリ是ヲ以テ此場合ニハ管
海官廳ノ認可ヲ得サルヘカラサルコト爲セリ此ノ如クスルトキハ管海官廳
ハ事實ノ調査ヲ爲シタル上之ヲ許否スヘキヲ以テ船長カ濫ニ船舶ヲ修繕スヘ

カラサルモノトシテ賣却スルコトノ弊ヲ防クニ足ルモノトス
本條ニ管海官廳トアリ又其他本編中諸所ニ之アルヲ見ルカ管海官廳トハ如何
ナル官廳ヲ指スカ是レ明治三十二年六月十五日勅令第二百六十三號ノ海事局
ヲ指モノニシテ海事局ハ逕信大臣ノ管理ニ屬シ船舶職員及ヒ水先人ノ試験船
舶ノ測度検査其他法令ノ定ムル所ニ從ヒ管海官廳ノ事務ヲ掌ル所ナリ而シテ
又船員法第七十九條ノ規定ニ依リ逕信大臣ハ管理官廳ノ事務ヲ行ハシムヘキ
或市町村長戸長及ヒ之ニ準スヘキ者ヲ指定シタリ明治三十二年六月十二日逕
信省令第二六號
○船舶ノ修繕不能ト看做サル場合——第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船
舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス
一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受タルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地
ニ到ルコト能ハサルトキ
二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ
前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其航海ノ時ニ於テ

但額トシ其他ノ場合ニ於テハ其變價前ニ有セシ價額トシ(獨賣商法第四四四條)
 本條ハ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタル場合ヲ例示シタルナリ船舶カ
 暗礁ニ墜シ其體ヲ失ヘルカ如ク破砕シタルトキハ復タ修繕スルコト能ハサル
 ヤ長ナシト雖モ然レトモ實際ニ於テハ如何ナル場合ニ果シテ修繕スルコト能
 ハサルニ至リタルヤハ疑ノ生スルコト多シ或ハ船舶カ實ニ修繕スルコト能
 ハサルニ非サレトモ之ヲ修繕スルトキハ得失相償ハサルコトアリ或ハ然ラサル
 モ實際船舶ヲ修繕シテ航海ノ用ニ供スルコトヲ得ルニ至ルヤ否ヤヲ見定ムル
 事得タルコトアリ而レテ單ニ之ヲ事實問題ノミニ一任スルハ後日ノ紛爭ヲ醸
 成スルノ基タルヲ免レス是ヲ以テ本法ハ獨賣商法ニ倣ヒ法律上船舶ヲ修繕スル
 コト能ハサルモノト看做ス場合ヲ規定セタリ而シテ事實上絕對ニ船舶カ修繕
 スルコト能ハサルニ至リタル場合ハ之ヲ事實問題ニ一任スルトモ後日紛爭ノ
 生スヘキ恐アラサルヲ以テ別ニ之ヲ規定ヲ設ケサルナリ何トナレハ船長カ船
 舶ヲ修繕スルコト能ハサルニ至リタルヲ以テ之ヲ就賣スルニハ前條ノ規定ニ

從ヒ管海官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要スルカ故ニ若シ事實上修繕スルコト能
 ハサルニ至リタルヤ否ヤニ付キ疑アルトキハ管海官廳ハ之ヲ調査シタル上許
 可スヘケレハ之ヲ許可ヲ經タルモノハ絕對ニ修繕スルコト能ハサルモノト視
 ルコトヲ得ヘケレハナリ而シテ法律カ本條ニ於テ船舶ヲ修繕スルコト能ハタ
 ルニ至リタルモノト規定シタル場合ハ元來修繕スルコト能ハサルニ非
 スシテ唯其現在地ニ於テ修繕スルコト能ハサルカ又ハ修繕ノ爲メニ夥多ノ費
 用ヲ要スルカ爲メ之ヲ修繕スレハ得失相償ハサルノ故ヲ以テ法律カ之ヲ修
 繕スルコト能ハサルモノト看做シタルニ過キザルナリ其場合ハ即チ左ノ如シ
 (一)船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到
 ルコト能ハサルトキ(二)船舶カ海難ニ遇ヒ航海中島地若クハ内地ノ沿海ニ於テ
 破損シタルトキ(三)其現在地ニ於テ修繕スルコト能ハサルトモ曳船シテ修繕ス
 ルコトヲ得ヘキ地ニ到ルヲ得ヘキトキハ實却モ之ヲ修繕シテ可ナリ然レト
 モ曳船或ハ修繕ノ費用ヲ合シテ船舶價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキハ第二ノ場
 合ニ入ルヘキ故ニ船舶カ修繕スルコト能ハスルヲ看做スルニ其現在地ニ於テ修

積スルコト能ハサルヲミナラス他ヲ修繕スルコトを得ヘキ地ニ到ルコト也
ハサルトキニ限ルナリ
(二)修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキハ船舶ヲ修繕スルコトヲ得サ
ルニ非スト雖モ其費用ニシテ夥多ナルトキハ得失相償ハス所謂修繕ヲ爲ス價
値ナキ場合ニシテ其程度ハ當事者ノ意思其船舶ノ種類造船術ノ進歩等ニ關
係スト雖モ法律ハ豫メ標準ヲ設ケ修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルト
キハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモスト看做シタリ
右船舶ノ價額トハ何時船舶カ有セシ價額ナルヤ之ヲ定ムル必要アリ例ヘハ船
舶カ港灣ニ碇泊中毀損スルコトアリ或ハ航海中毀損スルコトアリ其孰レノ場合
ニ於テモ理論上ニ於テハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其毀損前ノ價額ナルモ
實際上ニ於テハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其毀損前ノ價額ナルモ
ノハ容易ニ之ヲ算定スルコト能ハサルカ故ニ爭フ後日ニ絶フノ本條規定ノ精
神ニ基キ此點ニ付テモ實際ノ便宜ヲ計リ航海中毀損シタル場合ニ於テハ發航
ノ當時ニ於クル船舶ノ價額ニ依ルコトト爲シタル所以ナリ而シテ其他ノ場合

ニ於テハ當然ノ理ニ從ヒ船舶ノ毀損シタル當時ノ價額ニ依ルモノト爲シタル
ナリ

○積荷ヲ航海ノ用ニ供スルヲ得ルコト 第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續
スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第
五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス(舊商法第八七一條佛商法第二四九條獨舊
商法第五〇七條)

據ニ說キタル第五百六十八條第一項第三號ニモ航海ノ繼續其他ノ爲メニ必要
ナルトキハ積荷ヲ處分スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シ本條ニモ航海ヲ繼續スル
ニ必要ナルトキハ積荷ヲ處分スルコトヲ船長ニ許セリト雖モ彼規定ト此規定
トハ同一ナルモノニ非ス前ノ場合ニ於テハ積荷ヲ直接ニ航海ノ用ニ供スルカ
爲メニ處分スルニ非スシテ之ヲ賣却シ若クハ賣入シテ航海ノ繼續ヲ爲スニ必
要ナル費用ヲ支辨セシカ爲メニ其賣ヲ得ルニ在リ之ニ反シテ本條ノ場合ハ直
接ニ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルニ在リ例ヘハ前ノ場合ニ於テハ綿羅紗等ノ如キ
積荷ヲ賣却シテ石炭若クハ糧食ヲ買入ルルニ在リ後ノ場合ニ於テハ其船舶ニ

積載セシ石炭米油等ヲ直チニ其航海ノ用ニ供スルニ在リ而シテ積荷ニ他人ノ所有ニ屬シ船舶所有者ノ代理人タル船長ハ所有權ノ原則ニ從ヘバ其所有者ノ承諾ナキニ於テハ之ヲ徵收スルコトヲ得サレトモ其原則ハ第五百六十八條ニ於テモ説キタルカ如ク危急ナル場合ニ於テハ維持スルコトヲ得ス若シ航海中石炭油若クハ糧食ノ缺乏シタル場合ニ在リテモ之ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得サルモノト爲ストキハ其船舶ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至ル是ヲ以テ船長ニ此權限ヲ付與シタルナリ

茲ニ所謂航海ノ用ニ供スルモノハ單ニ船舶ノ航運ニ必要ナル石炭油等ヲ使用スルコトヲ指稱スルニ非スシテ旅客及ヒ乗組員ニ必要ナル糧食ノ缺乏シタル場合ニ米菜等ヲ其食用ニ供スルコトヲモ包含スルコトハ言フヲ俟タサルナリ

本條ノ場合ニ於テモ積荷ノ所有者ニ對シテハ損害ヲ賠償セサルヘカラサルモノニシテ處分シタル積荷ノ價額ハ前ノ場合第五六八條第二項ノ例ニ依ルヘキモノト爲セリ

○船長ノ解任——第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコ

トヲ得但し正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シテ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得船長ハ船舶所有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得船長ハ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス(舊商法第八四三條第八四四條佛商法第二一八條第二一九條舊商法第五一五條乃至第五二二條)

此規定ハ諸國ノ立法例ニ存スル所ニシテ船舶所有者權及ヒ委任ニ基ク代理人ノ意義ヨリ自ラ生スルモノナリ(民法第六五一條然ルニ之ヲ明言スルモノハ他ナシ契約ヲ以テ期間ヲ定ムルモ亦解任權ノ拋棄ヲ約スルモ解任ヲ防遏スルコト能ハサル旨ヲ示サシカ爲メナリ是ヲ以テ航海前若クハ航海中ノ解任權拋棄ハ其效力ナシ而シテ其解任ニ付テハ正當ノ理由アルコトヲ要セズ故ニ船舶所有者ハ船長ト意氣相合ハサルノ故ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得ヘク亦何等ノ理由ナクシテ解任スルコトヲ得ヘシ此ハ如キ船舶所有者ハ權利上船舶ヲ指揮者

一、受セラレタル權限ノ重大ニシテ船長ノ位職ヲシテ特別信用上ノ地位ヲ觀
ヲ呈セシムルカ爲メニ必要ナルヲ以テナリ而シテ是レ海員ト異ナル所ナリ海
員ハ正當ノ理由アル場合ニ非アレハ之ヲ解任スルコトヲ得サルヲ原則第五八
一條ト爲セリ若シ正當ノ理由ナキニ於テハ船長ヲ解任スルコトヲ得サルモノ
ト爲ストキハ船主所有者ハ解任ノ理由ヲ證明セサルヘカナルモノニシテ之
カ爲メニ船長トノ間ニ紛爭ヲ生シ隨テ航海ノ遅延ヲ來シ積荷ノ利害關係人其
他ニ對シ損害ヲ生スヘキヲ以テナリ故ニ何等ノ理由ナクシテ船主所有者ハ船
長ヲ解任スルコトヲ得ル權利ハ公益ニ基キタルモノナルヲ以テ當事者力之ニ
反スル契約ヲ爲スモ其效力ナキ所以ナリ

船長ヲ解任セラレタル場合ニ於テ損害賠償ノ請求權ハ解任ニ付キ正當ノ理由
アルト否トニ依リ區別スリ其正當ノ理由ニ基キタル場合ニ於テハ船主所有者
ハ船長ニ損害ヲ賠償スルコトヲ要セサルナリ例ヘハ船長ハ契約終了ノ日マテ
ノ給料故ニ航海中解任セラレタルトキ歸國旅費等ヲ請求スルコトヲ得サル大
ニ是レ亦海員ト異ナル所ナリ海員ハ雇止セラレタル場合ニ於テ其雇止ハ正當

ノ理由ニ基キタルトキト雖モ過失ナヘナケレハ雇入港マテノ送還ヲ請求スル
コトヲ得ヘキ權利アリ右ニ反シテ船長カ正當ノ理由ナクシテ解任セラレタル
トキハ其解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルコトト爲セ
リ是レ當然ノ規定ニシテ別ニ説明ヲ要セサルナリ然ルニ舊商法第八百四十三
條及ニ佛商法第二百十八條ノ如キハ船主所有者ハ書面ノ契約アルニ非アレハ
船長ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セサルモノト爲シ其解任ニシテ正當ノ理由ニ
基キト否トヲ問ハサルナリ其理由トスル所ハ船長ニ對シテ損害ヲ賠償スルコ
トト爲ストキハ船主所有者力解任權ヲ實行スルコトヲ阻害スルヲ虞アルニ由
ルト而シテ書面契約アル場合ニ損害賠償ヲ請求スルコトヲ許シタルハ爭訟ヲ
豫防スルノ趣旨ニ基キタルナリ然レトモ新商法ハ契約ニ付キ一般形式ヲ要セ
タルモノト爲シタルカ故ニ書面契約アル場合ニ限リテ損害賠償ヲ請求ヲ許ス
カ如キ舊法ノ規定ヲ採用セシテ船主所有者ノ都合ニ因リテ船長ヲ解任スル
トキハ當然ノ理由ニ基キ之ニ損害ヲ賠償スヘキモノト爲セリ

船長ハ船主共有者中ノ一人タルコトアリ此場合ニ於テ其選任・解任ノ權第五

五三條ハ船舶管理人ニ在ルカ故ニ船舶管理人カ船長ヲ解任スルトキハ其共有者ハ當然船長タル職ヲ失フニ至ルモ然レトモ船長ハ船舶共有者ト爲レル所以ハ自ラ船長ヲ兼スルカ故ナリ然レモ若シ其意ニ反シテ船長任ヲ解カサルニ於タル船舶ノ共有者タラサルノ意思アルコト多カルヘシ是ヲ以テ當事者ノ意思ヲ解釋シテ第二項ノ規定ヲ設ケタルモノニシテ此場合ニ於テハ他ノ共有者ニ對シテ自己ノ持分ヲ買取ルベキコトヲ請求スルヲ得セシメサルヘカラス而シテ此買取ノ請求ハ他ノ共有者全體ニ對シ又ハ船舶管理人ニ對シテ遲滞ナク之カ通知ヲ爲スコトヲ要ス

○船長ハ船舶所有者ニ對シテ有スル債權ノ時效ハ第五百七十五條ニ船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス(舊商法第九七六條、佛商法第四三二條、第四三三條、獨商法第九〇六條以下)

舊商法及ヒ佛、獨商法ニ於テハ時效ニ付キ一章ヲ設ケ各種ノ時效ヲ一括シテ規定シタリト雖モ本法ニ於テハ此ノ如ク立法例ニ倣ハス特別ノ事項ニ付キ各其章下ニ於テ時效ノ規定ヲ設ケタルコトト爲セルカ故ニ船長カ船舶所有者ニ

對シテ有スル債權ニ於ケル時效ヲ茲ニ規定シタルナリ而シテ船長カ船舶所有者ニ對スル債權ハ主トシテ給料ヲ稱スルモノニシテ其性質タルキ長ク其請求ヲ爲カス又ハ其辨濟ヲ怠ルヘキモノニ非ス隨テ之カ辨濟ヲ爲スモ其受取證ヲ長ク保存スルモノニ非ス故ニ此短期時效ヲ設ケタル所以ナリ

第二節 海員

海員トハ僱ニ説キタルカ如ク船長以外ノ一切ノ乗組員ニシテ船中ノ勤務ヲ爲スニ雇入レタル船長ノ指揮監督ヲ受クル者ヲ謂フ之ヲ區別スルトキハ三等ニ分ツコトヲ得第一、運轉士、機関士第二、水夫、第三、其他總テ船中使役人火夫厨夫給仕等是大ナリ而シテ海員ハ船舶所有者止メ法律關係ニ付タル船長ノ性質ヲ如ク混同アルモノニ非スシテ全ク雇傭關係ナレトモ之ヲ民法ノ規定ニ委スルコト能ハサルヲ以テ特ニ本法ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ而シテ海員ハ其法律關係ニ付タル皆同一ナルモノニシテ其間ノ階級ニ上下アリトモ之カ爲メニ法律關係ヲ異ニスルコト非タルナリ

員ハ危險ノ勞務ニ服シ船長ノ峻嚴ナル監督ノ下ニ在ル等非常ナル危險ト拘束
トテ受クル者ナルニ由ル而シテ海員カ既ニ法律上有効ナル雇傭契約ヲ取結ビ
タル以上ハ其契約ヲ實行スルノ義務アリ殊ニ此目的ヲ達セシカ爲メ先テ拘束
シタル時期ニ於テ船舶ニ乗込ミ其職務ニ就カサルヘカラス其義務ハ或ハ航海
ニ就クトキ始マルアリ或ハ既ニ其前荷物ノ船積船舶ノ艙艙等ニ從事スヘキコ
トアリ

船舶ノ勤務ニ從フヘキ者カレハ船長ノ許可ヲ受クルニ非ナ
レハ暫時タリトモ船舶ヲ離ルルヘカラス是レ猶ホ船長ニ於ケル第五百六十三
條ノ規定アルニ同シキナリ而シテ海員カ船長ノ指定シタル時マデニ船舶ニ乗
込マス又ハ船長ノ許可ヲ得シテ船舶ヲ去リタルトキハ損害ヲ生シタル場合
ニ於テ之カ賠償ヲ請求シ屢止ヲ爲スコトヲ得第五八一條ヘキコトハ論ヲ竣タ
ラレトモ其外船長ハ海員カ其許可ヲ得シテ船舶ヲ去リタルトキハ之ニ對シテ
テ懲戒權ヲ有シ船員法第三六條又船長ハ海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船
舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得シテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ之

ヲ強制スルコトヲ得同第四四條而シテ此場合ニ於テ公カ力ヲ藉ルコトヲ得
 キナリ同第四五條
 以上ノ外海員ガ雇入ノ手續ノ終リタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタ
 ル時ニ於テ船舶ニ乗込マタルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處セラレ
 得トス同第六一條
 以上ノ海員ノ義務ナリ同第六條外海員ノ役務ニ係ル事ハ慣習ニ從テヘキ事
 シテ法律ハ別ニ之ヲ列舉セズ而シテ其間スル所ハ航海上ノ事務ノ如キ異ノ船
 中勤務荷物ノ船積陸揚掃除及ヒ修繕ニ係ル役務等ニ限リ是レ即チ各海員其掌
 ル所ノ常務ニ止マルノミナラス非常ノ役務ト雖モ之ニ服スルノ義務ヲ有レ之
 カ爲シニ別段ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得タルカハ法律ニ依リテ定ムル事ナ
 以上ノ海員ノ義務ナリ其權利トシテハ種種ナルモノアリ或ハ食料ヲ請求スル
 權利アリ或ハ看護及ヒ治療ヲ請求スル權利アリ或ハ航海延長ノ場合ニ於ケル
 權利アリ或ハ死亡ノ際ニ於ケル權利アリ或ハ不當ナル雇止ノ場合ニ於ケル權
 利アリ或ハ或場合ニ雇止ヲ請求スル權利アリ

○食料ノ請求權 第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔
 トス同船員條例第四三條
 海員ノ食料ニ關スルコトハ特別ニ契約ヲ以テ當事者之ヲ定ムルコトヲ得ヘ
 ト雖モ若シ其定ナキトキハ船舶所有者之ヲ負擔スヘキモノト爲セリ蓋シ海員
 ノ給料ハ比較的少額ニシテ食料ハ其中ニ包含セラル通例トシ又實際ノ慣習
 ニ於テモ多クハ皆然ルカ故ニ法律ハ海員ノ食料ヲ船舶所有者ノ負擔ト爲シタ
 リ而シテ此規定ハ唯リ海員ト船舶所有者トノ間ノミニ適用セラルルニ非ス船
 舶カ賃賃借セラレタル場合ニ於テハ賃借人食料ヲ負擔スヘキモノトス又本條
 ニハ單ニ食料トノミアリテ飲料水ニ關スル明文ナケレトモ飲料水ハ固ヨリ必
 要ノ附從物ニシテ此食料ナル語中ニ包含スルモノトス
 ○治療及ヒ看護ヲ受ケル權 第五百七十八條 海員ノ服役中不行跡其他重大
 ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷病ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三
 个月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス前項ノ場合ニ於テ海員
 ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但し其職務ヲ行フニ關シ

用ノ負擔ヲ爲スモノニ非ス例ヘハ不品行ノ結果微毒ニ罹リ飲酒ノ末他人ト互ニ毆打シテ傷疾ヲ被リタルカ如キ場合ニ於テハ是レ自ラ求メタルニ等シケレハ海員ニ治療及ヒ看護ノ費用ヲ請求スルコトノ權利ヲ與ヘサルナリ茲ニ注意スヘキハ海員カ本條ノ權利ヲ有スルハ其疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受ケタルコトカ航海ノ始マル前ナルト後ナルトヲ問ハス又碇泊中ナルト否トヲ問ハス苟モ海員トシテ服役ニ就キタル後ナレバ可ナリナリ

海員カ不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受ケタルトキハ當ニ三箇月以内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ請求權ヲ有スルニ止マラス其給科ヲ請求スル權利ヲモ有セリ而シテ其請求權ハ疾病傷疾ニシテ海員カ其職務ヲ行フニ因リテ發生セタル場合ト然ラサル場合トニ依リテ區別アリ其疾病傷疾ニシテ海員カ其職務ヲ行フニ原因セシテ發生シタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マレトモ其疾病傷疾ニシテ若シ職務ヲ行フニ因リテ發生セタルトキハ海員カ之カ爲メニ休役セル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲セリ是レ至當ノ區別ナリ

海員が疾病に罹り又ハ傷病を受ケタ其職務を遂ヘザルニ至リタルトキハ船長ハ第五百八十一條第一項第四號ノ規定ニ従テ海員ヲ雇止ムルコトヲ得ルニシテ雖モ本條ニ規定スル治療及ヒ看護ノ費用ノ義務ニ付テハ其雇入期間ノ當然経過シタルトキト雖モ仍ホ三箇月間ハ之ヲ履行セザルヘカラズ

○航海延長ノ場合ニ於ケル信託 第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第八七九條 商法第二百五條獨逸海員條例第五四條

海員ノ給料ノ定メ方ハ種種アリ或ハ航海ヨリ生スル利益ノ幾分ヲ分配スルモノアルヘク或ハ運賃ノ幾割ヲ給スルモノアルヘシト雖モ今日ニ在リテハ一般ニ一箇月ニ付キ幾何若クハ一日ニ付キ幾何又ハ二航海ニ付キ幾何ト定ムルヲ通例トス而シテ其一日ニ付キ幾何一箇月ニ付キ幾何ト定ムタル場合ニ於テハ海員ハ單ニ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ受ケルニ過キザルモノニシテ其

而豫定航路ノ變更延長等アリテ如何ニ多忙ナリトモ之ヲ爲メニ給料ニ變更ヲ生セザルナリ然レトモ一航海ニ付キ給料ヲ定ムタル場合ニ於テ航海ヲ延長シ若クハ短縮シタルトキハ給料額ニ影響ヲ生スヘキナリ

航海ノ延長ハ天氣ニ起因スルト商業上又ハ政治上ノ原因ニ出ツルトテ同ハス契約上ノ航海ヲ變更スルヲ謂フモノニシテ其日數ヲ延長スルト日數ハ同シキモ其里程ヲ延長スルトアリ例ヘハ其航海中他ノ港ニ立寄ルカ爲メニ迂回シテ新ニ遠隔ナル港ニ到リ或ハ既ニ最初ノ到著地ニ著シ第二ノ到著地ニ向ケ航海スル等即チ是ナリ此場合ニ於テ海員ハ契約ノ文面ニ拘泥シ其船舶ヲ去ルノ權アルカ如シナレトモ然ラス唯其延長シタル割合ヲ以テ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得ルノミ而シテ里程ヲ延長シタルトキハ自ラ日數ノ延長ト爲ルコト多シト雖モ日數ヲ延長セシテ里程ノミヲ延長スルコトアリ此場合ニ於テハ其延長カ不可抗力ニ因ラザルトキハ海員ハ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但爲セザルナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ海員ハ一層奮勵スルヲ以テ其當然ノ義務ト爲セハナリ故ニ海員ハ里程ノ延長カ不可抗力ニ因ラザルトキ例ヘハ船

船所有者ノ都合ニ因リテ他港ニ寄リタルカ如キ場合ニ非サレハ増額ヲ請求スルコトヲ得ス夫レ此ノ如ク里程ノ延長ノ場合ニ於テ不可抗力ニ因リタルトキハ給料ノ増加ヲ許ササレトモ日數ノ延長シタル場合ニ於テハ不可抗力ニ因リタルトキト雖モ給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ許スカ何人モ不可抗力ニ因リテ生シタル損失ハ自ラ之ヲ負擔スヘキハ當然ナレトモ比較的僅少ナル給料ヲ以テ服役スル海員ニ之ヲ負擔セシムルハ酷ニ失スルヲ以テ航海日數ノ延長セタル場合ニ於テノミ不可抗力ニ因リタルトキト雖モ給料ノ増額ヲ請求スルコトヲ許シタルヲ然レトモ里程ノ延長カ日數ニ影響ヲ及ボササルトキハ海員ハ唯其勞務ニ繁忙ヲ増シタルノミニテ之カ爲メニ毫モ收入上ニ影響ヲ生セサルヲ以テ此場合ニ於テハ増額ヲ許ササル所以ナリ其ノ如キ場合ニ於テハ右ノ反對ニ於テ航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキ例ヘハ捷路ヲ取リ若クハ速力ヲ増シテ豫定ノ航海ヲ早ク終リタルトキハ海員ノ給料ハ短縮シタル割合ニ依リ減少スヘキヤノ問題生スヘキヲ以テ本條第二項ハ之カ規定ヲ設ケ此場合ニ於テハ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲セリ何トナレハ航海

其他ノ給付ヲ管財人ニ爲ラスシテ第一〇〇六條第一項破産者若クハ其代理人ニ爲シタルトキハ該支拂及ヒ給付ハ破産債權者團體ニ對シテ當然無効ナリ蓋シ支拂其他ノ給付ノ受領亦破産者ノ權利行為ノ一ナレハナリ是ヲ以テ債權者ハ破産財團ノ爲メニ管財人ニ對シ支拂其他ノ給付ヲ爲ササルヘカラス(第九八五條第二項未段)獨逸破産法第八條第一項瑞西破産法第二〇五條第一項然レドモ該支拂ハ破産債權者團體ニ對シ無効ナラニ止マリ破産者ニ對シテハ有效ナリ故ニ支拂ヲ爲シタル債權者ハ破産者ニ對シテ其義務ヲ免ル隨テ債權者カ破産財團ニ對シ同一債權ニ付キ支拂ヲ爲シタルトキハ破産者ニ對シテ求償權ヲ有スルハ當然ナリ但シ債權者カ其選擇ニ從ヒテ債權者中ノ一人ニ支拂ヲ爲ス權種ヲ有スルトキハ破産者ト爲タサル債權者ヲ選擇シテ爲シタル支拂ヲ破産債權者團體ニ對シ對抗力アルコトヲ得ルヤ否ヲ決タス道ハ選擇權實行ノ結果ナリ獨逸破産法及ヒ瑞西破産法ニ於テ破産者ノ權利行為ヲ無効ト爲ス規則ハ當然ノ適用タル支拂無効ノ附屬的特別條ニ從タサル理由ハ支拂其他ノ給付ヲ爲シタル債權者カ善意ナル場合ニ於テ之ニ對シ支拂ヲ爲スル義務ヲ免レシムルハ

例外ヲ設ケタルカ爲メナリ我商法ノ新重要ナル例外又設ケズ却テ明文ヲ待タズシテ顯然タル破産者ニ爲タル支拂ハ當然無効トシ且明文ナクモ設ケタルハ立法上其必要ナシト謂ハサルヲ得ヌ(b)破産債權者團體ニ對シテ當然ハ無効トハ相對的無効ニシテ絕對的無効ニアラス之ヲ換言セハ當然即テ裁判所ノ判斷ヲ待タズシテ破産財團ノ管理者タル破産人カ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ破産財團ノ管理及ヒ處分ニ付キ破産者及ヒ其相手方間ニ於テ有效ナル權利行爲ヲ法律上存在セサルモノトシテ取扱フコトヲ得ル旨ヲ意味シ當事者間ニ於テ亦無効ナル旨ヲ意味セズ蓋シ債務者ハ破産ノ宣告ニ因リ行爲能力ニ制限ヲ受ケス隨テ有效ニ權利行爲ヲ爲スコトヲ得故ニ破産者及ヒ其相手方間ニ於テハ權利行爲カ效力ヲ存スルハ當然ナレハナリ之ヲ換言セハ管理及ヒ處分權ノ喪失ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ破産財團ニ關係ヲ及ボスヘキ破産者ノ破産宣告以後ニ於ケル權利行爲ヲ無効ト爲スノ内容ヲ有スルニ止マレハナリ(我商法ニ於テハ獨逸破産法及ヒ瑞西破産法ニ於ケルカ如ク總破産債權者ニ對シ無効ナル旨ヲ明文ヲ缺クトモ管理及ヒ處分權喪失ノ法意ニ

基テ當然ノ結果トシテ破産債權者團體ニ對シテ無効ナルモノナルハ言フ決タス故ニ第一ニ管財人ハ破産者ノ權利行爲ヲ無効ナリト認定シ其主張ニ反スル狀態ヲ回復スルカ爲メニ破産者ニ支拂ヒタル金錢ノ返還破産者ノ交付シタル物件ノ取戻及ヒ破産者ノ拋棄シタル地役權ノ存在ヲ主張スルコトヲ得破産宣告ノ公告ノ有無及ヒ取引者ノ意思ノ善惡等ハ法律上敢テ斟酌スヘキモノニアラズ何トナレハ權利行爲ノ無効ハ破産宣告ヲ前提ト爲スニ止マル隨テ其公告ノ有無若クハ當事者カ破産宣告ヲ知リタルト否トヲ前提ト爲サザレハナリ獨逸破産法ハ原則トシテ破産者ノ權利行爲ノ無効ヲ相手方ノ惡意即チ破産手續ノ開始ヲ知ルコトニ繫ラジテ隨テ破産財團ニ屬スル動産ノ取得者ハ其善意ノ故ヲ以テ權利行爲ノ無効ヲ否認スルコトヲ得然レドモ破産財團ニ屬スル不動産ノ取得者ハ破産手續ノ開始カ土地臺帳ニ於テ明白ニ登記セラレ居ル該開始ヲ知ルタルトモアラズハ其取得カ破産債權者團體ニ對シテ效力ヲ有シ規定シ(動産ノ善意取得ノ保護ハ管理及ヒ處分權喪失ノ目的ヲ危カストノ理由ニ基キテ不動産ノ善意取得ト其取扱ヲ異ニシテ)又破産手續ノ開始後管

ノ支拂ヲ受ケ不當ニ利得スルニ至ルヲ以テナリ破産者ノ代理人ノ破産財團ニ關スル權利行為モ亦前述ノ如ク管財人カ無効ナリト認ムルコトヲ得何トナレハ代理人ハ本人ヨリ多クノ權能ヲ有セザレハナリ獨逸破産法第七條第三項ハ破産債權者ノ利益ノ爲メニ破産手續開始ノ日ニ於テ爲シタル破産者ノ權利行為ハ破産手續ノ開始後ニ於テ成ルモノト推定シタリ洵ニ實際ニ便宜ナル規定ト謂フヘシ(2)破産宣告以後ニ於テ爲ス破産財團ニ關スル破産者ノ爲メニスル訴訟及ヒ之ニ對スル訴訟ハ破産債權者團體ニ對シテ效力ヲ有セス又破産手續開始ノ當時ニ於テ破産財團ニ屬スル財産ニ關スル緊需訴訟ハ該手續ノ開始ニ因リテ中斷セラル(3)破産者ハ破産ノ宣告ニ因リ破産財團ニ屬スル財産ノ管理及ヒ處分權ヲ喪失スル當然ノ結果トシテ該財産ニ關スル訴訟ニ付キ訴訟能力ヲ喪失スルヤ言フ塊タス故ニ此種ノ訴訟ハ破産手續繼續中管財人ニ依リテ取扱ハレサルヘカラス隨テ破産宣告以後ハ管財人ヨリ又ハ之ニ對シテ起訴シ又ハ執行セサルヲ得ス第九八五條第三項第一〇一九條第一項破産財團ニ關係ナキ訴訟ハ破産手續開始ノ爲メニ何等ノ影響ヲ受クルコトナシ是ヲ以テ親權婚

姻其他人事ニ關スル破産者ノ訴訟破産者ニ專屬スル財産ニ關スル訴訟破産者カ破産財團ヲ侵害セサル範圍内ニ於テ爲シタル行為ヨリ生シタル權利ニ關スル訴訟及ヒ執行ノ類等ノ如キ破産財團ニ關係ナキ訴訟ハ破産手續開始後ニ於テモ破産者ヨリ又ハ破産者ニ對シテ提起シ之ヲ續行シ又該訴訟ニ關スル執行ヲ破産者ヨリ又ハ破産者ニ對シテ爲スコトヲ得(b)破産財團ニ關スル破産者ノ爲メニスル訴訟及ヒ之ニ對スル訴訟ハ破産手續ノ開始ニ因リテ中斷セラル(民事訴訟法第一七九條第一八七條獨逸破産法第一〇條第一五條獨逸民事訴訟法第二一七條佛蘭西商法第四三條第二項瑞西破産法第二〇六條等蓋シ破産者ハ管理及ヒ處分權ヲ喪失シタルカ故ニ破産財團ニ關スル訴訟ヲ爲ス能ハス隨テ緊需訴訟ヲ中斷スルノミナラス該訴訟ノ結果ハ破産者ニ利害ノ關係ヲ來スコトナク唯破産債權者ニ損害ヲ及ホスノミナレハナリ破産者ノ爲メニスル訴訟即チ所有權地役權抵押權債權等ニ基ク請求若クハ其法律關係ノ成立ヲ破産者カ原告タルト否トニ拘ラス主張シタルニ因リテ破産者ノ爲メニ緊需シタル訴訟自動的訴訟力中斷シタルトキハ管財人ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ破

着手開始ノ當時ニ於ケル程度ニ於テ該訴訟ヲ受繼スルコトヲ得獨逸破産法第一〇條第一項又ハ該受繼ヲ拒絕スルコトヲ得中斷シタル訴訟ノ受繼ハ民事訴訟法ノ規定ニ從テ民事訴訟法第一八七條而シテ管財人カ該訴訟ノ受繼ヲ拒絕スルコトナクシテ之ヲ遲滞シタルトキハ民事訴訟法第一七八條ノ準用ニ依リ獨逸破産法第一〇條第一項相手方ハ其申立ニ因リ裁判所ヲシテ管財人ヲ受繼及ヒ本案辯論ノ爲メニ呼出サシムルコトヲ得(甲)期日ニ於テ出頭シタル管財人カ訴訟手續ヲ受繼キタルトキハ訴訟ヲ進行シ受繼ヲ拒絕シタルトキハ之ニ因リテ管財人ニ對スル訴訟手續ヲ終了ス受繼ニ關スル訴訟費用ハ財團債務トシテ破産債權者團體ノ負擔スル所ナリ何トナレハ該費用ハ該團體ノ機關タル管財人カ受繼若クハ其拒絕ノ意思表示ヲ遲滞シタルニ因リテ生シタルモノナレハナリ(獨逸破産法第五九條第一)管財人カ受繼ノ爲メノ呼出ヲ訴訟物カ破産財團ニ屬セス若クハ受繼ヲ既ニ裁判外ニ於テ拒絕シタリトノ理由ヲ以テ爭ヒタルトキハ茲ニ中間ノ爭ヲ存シ該呼出ヲ正當ナリト表示スル裁判ヲ中間判決ニ從ヒテ(民事訴訟法第二二七條若クハ終局判決ノ理由中ニ於テ爲シ反對ノ裁

判ヲ終局判決ニ於テ爲スヘキモノナリ隨テ管財人ハ該裁判ニ對シ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得管財人トシテ呼出サレタル者カ管財人タルノ資格ヲ爭ヒタルトキハ民事訴訟法第二百六條及ヒ第二百七條ニ從ヒテ裁判スヘキモノナリ又タズ(乙)期日ニ於テ管財人カ出頭セザルトキハ職權調査ノ結果トシテ呼出サレタル者カ管財人ニ非サルコトノ明白ナラサル以上ハ民事訴訟法第七十八條第三項ニ從ヒテ裁判スルヤ當然ナリ中斷シタル訴訟受繼ノ拒絕ノ形式ハ法律上別ニ規定シタル所ナリ訴訟ノ相手方ニ對スル單純ナル拒絕ノ意思表示ヲ以テ足ル而シテ管財人ノ自動的訴訟ノ受繼拒絕ハ訴訟物ニ對スル破産債權者團體ノ破産の差押權ヲ拋棄シタルモノニ外ナラサルヲ以テ訴訟物ハ破産手續ニ關係ナキ破産者ノ財産ト爲ル隨テ破産者若クハ其相手方ハ訴訟ヲ受繼スルコトヲ得獨逸破産法第一〇條第二項訴訟物タル請求權カ破産財團ニ屬スル目的物ト破産財團ニ屬スル土地ノ地役權該財團ニ屬スル債權ノ抵當權ノ如キ主體ノ關連ナル場合ニ於テ亦破産者若クハ其相手方カ訴訟ノ受繼ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ學者ノ爭フ所ナリ(乙)期日ニ於テ管財人等ハ新ル訴訟物カ

獨立シタル財産權ニアラス故ニ管財人カ訴訟ノ受繼ヲ拒絕セタリト雖モ訴訟ノ利益ハ破産者ニ歸セスシテ却テ主タル財産權ノ屬スル破産財團ニ歸スルヲ以テ破産者ハ訴訟ヲ受繼スルノ權利ヲ行使スルコトヲ得ス隨テ相手方ハ唯管財人ニ對シテノミ受繼ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノタリト主張シテハハド「コーレル」氏等ハ破産財團ハ破産者ノ財産ナリ又破産債權者團體ノ爲メニ地役權ナキモノトシテ土地ヲ讓渡スルコトヲ得ルニ妨ナキヲ以テ破産者若クハ其相手方ハ其利益ノ爲メニ訴訟ヲ受繼スルコトヲ得唯管財人カ主タル財産權即チ土地若クハ債權等ヲ破産手續ニ從ヒテ換價スルニ因リテ破産者カ訴訟ヲ受繼スルコト能ハサルノミト主張シテ反對シタリ余輩ハ後説ニ賛成ヲ表ス破産者ニ對スル訴訟即チ破産手續ノ開始後ニ於テ別除請求權別離請求權若クハ破産財團上ノ請求權タルヘキ破産財團ニ關スル財産權ヲ目的トスル訴訟カ（他動の訴訟中斷シタルトキハ）管財人若クハ破産者ノ相手方カ受繼スルコトヲ得獨逸破産法第一一條第一項而シテ管財人カ訴訟物即チ別除請求權及ヒ別離請求權ノ目的タルヘキ財産ヲ破産財團ニ屬スルモノトシテ取扱ハサル旨ノ意

思フ表示シタルトキハ該表示ハ緊屬訴訟カ破産財團ニ關係セサル旨ノ效力ヲ生ス隨テ管財人ニ依リ又ハ管財人ニ對スル訴訟ノ受繼ハ之ヲ爲スコトナクシテ破産者ヨリ又ハ之ニ對シ相手方ヨリ訴訟ヲ續行スルコトヲ得管財人ニ對スル訴訟ノ受繼アリタルトキハ之ニ因リテ管財人ハ訴訟物ヲ破産財團ノ外ニ置キ以テ訴訟ヲ避クルコトヲ得ス然レトモ管財人ハ相手方ニ訴訟物ヲ破産財團中ヨリ交付シ若クハ訴訟物上ニ別除の滿足ヲ認容シ以テ本案ノ訴訟ヲ目的物ノ欠缺ト爲スコトヲ得其他管財人ハ相手方ノ請求ヲ裁判上認諾シ以テ爾後ノ不必要ナル訴訟進行ヲ避クルコトヲ得破産債權ニ關スル緊屬訴訟ノ中斷ニ關シテハ前述シタル所ナレハ參考ヲ求ム（c）管財人ヨリ若クハ之ニ對シテ訴訟ノ受繼アリタルトキハ該訴訟カ自動的タルトモ他動のタルトモ拘ラス管財人カ破産債權者團體ノ機關トシテ訴訟上破産者ノ地位ニ代リ破産者カ當事者タルコトヲ止メ破産債權者團體カ之ニ代リテ當事者ト爲ル隨テ破産者ハ從參加人トシテ管財人ヲ補助スルコトヲ得獨逸民事訴訟法第六九條佛蘭西商法第四四三條訴訟ノ中斷前ニ於テ生シタル訴訟行為係ニ自白ハ該訴訟ヲ受繼シタル當事

者ニ對シ又ハ之ヲ爲メニ效力アルコトハ民事訴訟法上疑ナキ所ナリ蓋シ受繼シタル訴訟ハ其中斷ノ當時即チ破産手續開始ノ當時ニ於ケル狀態ニ於テ續行セラルヘキモノナレハナリ訴訟ノ受繼以後管財人敗訴ノ場合ニ於テハ破産手續開始以後ニ生シタル訴訟費用ヲ破産債權者團體カ財團債務トシテ賠償スヘキ責任ヲ負フコトハ該訴訟費用賠償義務カ管財人ノ訴訟ヲ爲シタルコトニ依リテ成立シタルモノナルヲ以テ明瞭ナリト雖モ破産手續開始以前ニ於テ生シタル訴訟費用ハ破産債權トシテ相手方カ主張スヘキモノナルヤ破産債權者團體カ負擔スヘキモノナルヤハ甚タ疑ハシキ問題ナリ破産手續開始以前ニ於テ生シタル訴訟費用負擔義務ハ破産手續開始ノ當時マデニ於テ爲シタル破産者其人ノ義務ニ外ナラズトノ見解ヲ採用セハ前者ノ如ク論結シ「フツチンダ氏此論結ヲ採ル特別ノ費用ニアラサル限ハ受繼者ハ其以前ニ於ケル費用ヲモ負擔スヘキモノナリト」訴訟法上ノ見解ニ從ヘハ後者ノ如ク論結スルヲ正當トス「アイフェルドニコレ」氏ハ此論結ヲ採ルニ似タリ余輩ハ前説ヲ正當ト認ム但シ他動の訴訟ニ於テ主張シタル請求ヲ管財人カ直チニ認諾シタルトキハ破

産債權者團體ハ其負擔スヘキ訴訟費用ノ賠償ヲ免ル民事訴訟法第七四條(獨逸)産法第一一條第二項受繼シタル訴訟ニ於テ本案ニ付キ爲シタル裁判ハ破産者ニ對シテ亦效力ヲ有ス何トナレハ破産者ハ經合當事者ニアラサルモ破産法カ破産債權者團體ニ破産者ニ代リテ訴訟ヲ續行スルノ權能ヲ認メタレハナリ管財人ヨリ又ハ之ニ對シ受繼シタル訴訟カ破産手續ノ停止若クハ協議契約ニ基テ破産手續ノ終局ニ際シテ未タ繫屬中ナルトキハ破産財團ニ對スル破産的差押權ノ消滅ヲ來スヲ以テ破産債權者團體及ヒ其機關タル管財人ハ該訴訟ヲ續行スルノ權限ヲ喪失スルヤ當然ナリ隨テ該訴訟ハ破産者ヨリ又ハ之ニ對シテ續行スルコトヲ得ルモノト謂フヘシ然レトモ該訴訟カ配當ニ基テ破産手續ノ終局ニ際シテ未タ繫屬中ナルトキハ管財人ハ此訴訟ヲ續行スルノ權能ヲ有ス蓋シ管財人ハ其勝訴ノ場合ニ於テ訴訟物ヲ換價シ破産債權者ニ爾後配當ヲ爲スヘキモノナレハナリ但シ破産財團ニ關スル訴訟カ破産手續中受繼セザレザリシトキハ該訴訟ノ中斷ハ破産手續ノ終局ニ依リ當然消滅シ各從來ノ當事者カ之ヲ續行スルコトヲ得ルヤ言テ決タス(3)破産財團ニ關スル破産者ノ爲メニ爲

又強制執行又ハ其執行ノ續行ハ管財人カ其當然ノ職務トシテ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニ著手シ又ハ爲スヘキモノナリ(第一〇一九條破産財團ニ關スル破産者ニ對スル強制執行ハ請求權ノ種類ニ拘ラス總テ破産手續ノ開始ニ因リテ其著手又ハ其續行ヲ妨ケラルモノト謂フヘカラス破産手續開始以後ニ於テ別除請求權又ハ別離請求權ト爲スヘキ權利ニ關スル強制執行ハ新ニ管財人ニ對シテ之ヲ爲シ又ハ之ヲ續行スルコトヲ得強制執行ノ禁止ハ破産債權者團體ノ利益ノ爲メニスヘキモノナルヲ以テ破産手續ニ關係ナキ別除請求權別離請求權ノ強制執行ハ破産手續開始ノ爲メニ其著手及ヒ續行ヲ禁止シ得ヘキモノニアラス殊ニ既ニ著手シタル強制執行ニ關シテハ承繼ノ如キ手續ヲ要セスシテ直ニ管財人ニ對シ之ヲ續行スルコトヲ得ヘシ蓋シ管財人ハ破産者ノ形式的代表資格ヲ承繼シタルニ外ナラサルノミナラス民事訴訟法第百七十九條ハ唯繼屬手續ニ適用セラレ確定ノ裁判シタル後ニ顯ハル執行手續ヲ適用セラルモノニアラサレハナリ(民事訴訟法強制執行講義參考)第九八五條第三項第九八七條優先權……)商法草案第千四十一條ニ於テハ(別除請求權)ト云ヘリ

故意ノ修正ナルヤ否ヤ不明ニ屬スレトモ商法千條ニ規定シタル相續財産ノ別除權ヲ包含スルモノト解釋スルヲ正當トス蓋シ優先權ニ基テ別除權ト區別スヘキ理ナケレハナリ(佛蘭西商法第五四八條第五七一一條然レトモ我商法ハ佛白等ノ立法例ニ倣ヒ(第九八六條佛蘭西商法第四五〇條但シ佛白千八百七十二年ノ法律ヲ以テ第四百五十條ヲ改正シタルカ故ニ佛國現行商法ニハ斯ル規定ヲ見ス白耳義商法第四五四條等)不動產貸賃權者カ其有スル先取特權ノ行使トシテ(民法第三一二條第三一二三條)貸賃人タル破産者ノ營業用ノ動產ニ對シテ爲シタル強制執行ハ三十日間之ヲ猶豫スヘキモノト定メタリ是レ一方ニ於テハ俄然營業ヲ中止シ協議契約ノ成立ヲ妨害スルコトヲ避ケ他ノ一方ニ於テハ急速の賣却ヨリ生スルコトアルヘキ不利益ヲ避ケルニ外ナラス但シ期間ノ滿了若クハ解除等ニ因リ貸賃人カ貸賃人ニ對シ有スル貸賃物ノ取戻權即チ別離請求權ニ關シテハ三十日間猶豫スルコトナク強制執行ヲ爲スコトヲ得セシメタリ何トナレハ斯ル場合ニ於テハ貸賃權カ既ニ消滅シタルヲ以テ破産者ハ到底其營業ヲ續行スルコト能ハサルヲ以テ三十日間猶豫スルノ必要ナク且テ取戻權ノ

執行ハ備附クタル營業用ノ動産ノ除去ヲ爲ササルヲ得サレバナリ又貸貸人ノ意思ニ反シテ貸貸契約ヲ更新セシムルコトヲ得サレハナリ(第九八六條但書該條文ハ文理解釋上取戻權アルトキハ三十日間猶豫セシテ直チニ營業用ノ動産ニ執行ヲ爲スコトヲ許スニ似タルヲ以テ舊チ抽ナリト認メサルヲ得ス佛蘭西商法第四百五十條及ヒ我商法草案理由書ノ趣旨ヲ對照セハ取戻權ニ三十日ノ猶豫ナキ趣旨タルコト明白ナリ而シテ管財人カ三十日ヲ執行猶豫期間内ニ破産債權者團體ノ利益ヲ爲メニ貸借人タル破産者ノ延滞シタル貸金ノ支拂ヲ準備シ且ツ貸貸人ニ支拂ヒ以テ強制執行ヲ止ムルトキハ貸貸借ノ存続スルヲ以テ營業ヲ續行シ或ハ該權利ヲ相當代價ニテ他人ニ讓渡スルコトヲ得ルノ利益アリ破産手續開始以後ニ於テ破産債權ト爲ルヘキ權利ニ關スル強制執行ハ破産手續開始以後ニ於テ之ヲ開始シ又ハ之ヲ續行スルコトヲ得ス何トナレハ前述ノ如ク破産手續繼續中ハ破産債權者各個人ノ爲メニ強制執行ヲ爲スコトヲ許ササレハナリ隨テ商法第九百八十五條第三項ニ所謂破産者ノ動産不動産ニ關スル執行ハ別離請求權又ハ別除請求權ニ關スル執行ト解セサルヘカラス

第九八七條、獨逸破産法第一四條第一二六條、埃太利破産法第一一條第一二條、
(三) 身上ニ對スル效力 破産者ノ身上ニ對スル效力ハ名譽ト信用トニ基テ公權及ヒ私權ノ行使ヲ停止スルニ外ナラス公權及ヒ私權ノ剝奪ニアラス故ニ佛蘭西商法ニ於テハ無能力ト云ヒ又埃國破産法第二百四十六條ニ於テハ商人ハ左ニ示ス權利ノ行使ヲ爲スコトヲ得スト規定シタル所以ナリ斯ル制度ハ其寬嚴ノ區別アレトモ諸國ノ破産法ノ認メタル所ナリ第一〇五四條佛蘭西商法第六〇四條乃至第六一四條、埃太利破産法第二四六條等英吉利破産法第三二條等其他白耳義和蘭西班牙等獨逸ニ於テ公權ニ關シ破産手續繼續中破産者ノ權能ヲ制限シタルコトハ「デルンブルヒ氏」著「普蘭西私法論」ニ依リ明白ナリ其立法上ノ理由ハ破産ノ效力ノ恐ルヘキコトヲ知ラシメ以テ破産ノ宣告ヲ豫メ避ケシメシトスルノ目的ノ外破産ノ宣告ハ破産者ノ名譽ト信用トニ對シテ何等ナル瑕癥ヲ來スヲ以テ特ニ名譽ト信用トニ基テ公私ノ權利行使ヲ停止セシムルニ在リ(第一〇五四條商法施行法第一四三條裁判所構成法第六六條第三號辯護士法第五條第四號市制町村制第九條衆議院議員選舉法第一四條貴族院伯爵子男爵議員選

[illegible]

破產法 實體的破產法規 破產宣告ノ效力

タルコトヲ要スルコト是ナリ(1)詐欺破産者トシテ有罪判決ヲ受ケタル者ハ復権ヲ受タルノ資格ナシ蓋シ詐欺破産者ハ蓋シテ信用ト名譽トヲ害シタルヲ以テ信用回復ノ望ナキ者ト看做シタルナリ然レトモ此種ノ破産者ト雖モ終身失望ノ人ト爲スハ公益ニ反スルヲ以テ立法上ノ缺點タルヲ免レス(2)過怠破産者トシテ有罪判決ヲ受ケタル者ハ刑ノ満期ト爲リ刑ノ時效ヲ得タルトキ亦同一ナリ又ハ特赦ヲ得タルトキニ限リ復権ヲ許サル佛蘭西商法ハ裁判所ヲシテ復権ノ許可ヲ自由ニ判斷セシム蓋シ過怠破産ハ詐欺破産ニ比スレハ信用ト名譽トヲ害スルノ程度少ケレハナリ又刑ノ満期或ハ特赦ヲ得タルトキノ制限アルハ刑期中ニ復権ヲ許スモ實效ナケレハナリ(3)重罪輕罪ノ爲メ刑罰公權若クハ停止公權ヲ受ケ其期間中ニ在ル破産者ニハ復権ヲ許サス蓋シ此期間中ニ在ル破産者ニ復権ヲ許スモ其實效ナケレハナリ(第一〇五八條佛蘭西商法第六一二條)以上ノ要件ヲ具備シタルトキハ復権ヲ許スニ足ル隨テ破産者ノ生死ハ問フ所ニアラス(第一〇五七條佛蘭西商法第六一四條第一項何トナレハ復権ハ破産者ノ名譽回復ヲモ目的ト爲セハナリ故ニ破産者ノ親族又ハ友人ハ破産者ノ死

亡後ニ於テ其利益ノ爲メニ復権ノ申立ヲ爲スコトヲ得(四三條)又復権ノ申請ニ於テ手續 復権ノ申立ヲ爲サント欲スル者即チ破産者其親族及ヒ朋友等ハ親族及ヒ友人ハ破産者ノ意思ニ反シテ復権ノ申立ヲ爲スコトヲ得(何トナレハ復権ハ破産者ノ利益ニシテ損害ト爲ラザレハナリ)書面又ハ口頭ニテ破産裁判所ニ復権許可ヲ求ムル者ノ申立ヲ爲シ且ツ前示要件ヲ履行シタル旨ノ證據方法ヲ添付スヘシ(第一〇五五條第二項第一〇五六條佛蘭西商法第六〇五條佛蘭西破産法第二四六條我商法ハ英國破産法ニ同シテ破産裁判所ヲ以テ復権申立ノ管轄裁判所ト爲シタル理由ハ該裁判所カ復権ノ申立ノ許可ニ付キ最も適當ニ裁判ヲ爲スノ便宜ヲ有スレハナリ申立ヲ必要ト爲ス理由ハ復権カ直接ニ破産者ノ利益ニ關スレハナリ(當事者ノ行爲)又復権ノ申請ハ破産者ノ破産裁判所ハ裁判ヲ爲ス前手續トシテ第一ニ適法ナル復権ノ申立アリタルト明治二十三年法律第六六號商事非訟事件印紙法第三條第二號ハ之ヲ宣告ス其目的ハ復権ヲ許スヘキ要件ノ實在ヲ確認スルニ在リ故ニ(1)公衆カ復権ノ申立アリタル旨ヲ認知スルニ容易ナル方法ト場所トニ於テ該申立ヲ公告シ(2)

債権者カ其他ノ利害關係人ヲシテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得セシム佛國商法第六百八條ニ依レハ異議申立者ハ復權ノ手續ニ於テ相手方ト爲ラサル旨ヲ明記スルヲ以テ別ニ疑ヲ存セスト雖モ我商法ニ於テハ斯ル明文ナキヲ以テ多少ノ疑アリ然レトモ商法第五十六條第二項ニ依レハ復權ノ申立ノ可否ニ關スル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルノ法意ヨリ推理セハ異議申立者ハ相手方ト爲ルモノト論決スルヲ正當ト認ム破産者ハ異議申立者ニ對シテ未済ノ金圓ヲ支拂ヒ其他異議ノ原因ニ關スル消極的確認訴訟ヲ以テ復權ノ申立ニ關スル裁判前ニ異議ヲ除去スルコトヲ得ヘキヤ言フ埃タス第二ニ復權ノ申立ヲ檢事ニ通知シ主トシテ商法第五十八條ノ要件ノ存否ヲ調査シ且ツ之カ搜索ヲ爲サシム(裁判前手續)

以上ノ前手續完了後破産裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後復權ノ申立ノ可否ニ關スル裁判ヲ爲ス其許可ノ裁判ニ對シテハ異議申立者ヨリ又申立棄却ノ裁判ニ對シテハ申立者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得商法施行條例第二四條申立許可ノ決定カ確定シタルトキハ破産ノ宣告ト同シク職權ヲ以テ之ヲ公告ス蓋シ

復權ハ債権者ノ名譽ヲ回復シ破産宣告ヨリ生シタル身上ニ對スル效力ヲ消滅セシムルモノナレハナリ申立棄却ノ決定確定シタルトキハ其後一箇年滿了前ニハ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ屢復權ノ申立ヲ爲スヨリ生スル煩雜ヲ防止スルニ在リ第一〇五六條佛蘭西商法第六〇五條第六一一條等(裁判)

(四) 效果 復權ニ因リ破産者ノ身上ニ對スル效力ハ消滅ス是レ復權ノ目的ヲ達シタル當然ノ效果ナリ

(五) 第三者ニ對スル效力

第三債務者カ其債権者タル破産者ニ對シ爲シタル給付及ヒ第三者カ破産者ト爲シタル取引カ破産債権者團體ニ對シ無効ナルコトハ前述シタル所ナリ第三者カ破産者ト財產ヲ相續契約等ノ原因ニ基キテ共有シタルトキハ破産者ノ持分又ハ持分權カ破産財團ニ屬スルヤ言フ埃タス而シテ共有者ノ一人カ破産宣告ヲ受ケタルニ因リ其有關係カ實體法ニ基キテ消滅シ且ツ其有者間ノ計算ヲ爲スヘキモノナルトキハ破産手續ノ外ニ於テ其有關係ノ消滅即チ分割及ヒ計算ノ爲メニ設ケラレタル法規ニ從ヒテ破産者ノ持分ヲ確定ス此場合ニ於テハ

管財人カ破産債權者團體ノ機關トシテ破産宣告ヲカリ、破産者ノ有スヘキ權利及ヒ義務ヲ行ヒ又該持分カ破産財團ニ屬スルヲ當然ナリ、獨逸破産法第一六條獨逸破産法ニ於テハ執行ヲ容易ナラシムルカ爲メ遺言及ヒ契約ヲ以テ爲シタル分割ヲ一時若クハ永久ニ爲ササル旨ノ意思表示ハ破産債權者團體ニ對シ無効ナリト規定シタリ、獨逸破産法第一六條第二項我商法ニ於テハ斯ル明文ナキヲ以テ反對ニ論決セサルヘカラス、民法第二五六條但シ實體法ニ基キテ共有關係ノ消滅及ヒ計算ヲ爲スコト能ハサルトキハ破産者ノ持分權カ破産財團ニ屬ス蓋シ持分權亦差押ノ目的物タルコトヲ得レハナリ、民事訴訟法第六二五條社員ノ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ亦前示法則ノ適用アリ、即チ持分ノ計算ヲ爲スコトヲ得ル場合ニハ持分カ破産財團ニ屬シ之ヲ爲スコトヲ許ササル場合ニハ持分權カ破産財團ニ屬ス、民法第六八條第二項第二號商法第六九條第七一條等）

第二節 既往ニ關スル破産宣告ノ效力

物の擔保權ヲ有セタル債權者ハ其債務者ノ財産上ニ満足ヲ享有スルコトヲ債務者ノ權利行爲ニ因リテ妨ケラルルコトアリ、斯ル妨害ハ債務者カ其財産ヲ減少スルノ行爲及ヒ其債務ヲ増加スルノ行爲ニ因リテ發生ス、法律ハ斯ル妨害行爲ニ對シ物の擔保權ヲ有セタル債權者ヲ保護セサルヲ當然トス蓋シ此種ノ債權者ハ物の擔保ヲ債務者ニ要求セザリシ結果トシテ斯ル損害ノ危險ヲ負擔スヘキモノナレハナリ、然レトモ斯ル觀念ハ立法上無制限ニ認ムルコトヲ得ズ、特別ナル事情ノ存スル場合ニ於テハ此種ノ債權者ヲ債務者ノ行爲ヨリ生スル損害ニ對シ保護スルヲ條理ニ適シタルモノト認メサルヲ得、此保護方法トシテ法律ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムヘキ債務者ノ行爲ヲ取消スル權利ヲ認メタリ、廢罷訴權ナルモノ即チ是ナリ、第九九〇條第九九一條民法第四二四條債權者ハ債務者ノ行爲ヲ取消ヲ其破産宣告以前ニ於テ請求スルコトヲ得、又ハ其破産宣告以後ニ於テ請求スルコトヲ得、殊ニ債務者ノ破産宣告ニ因リテ其以前ニ於テハ取消ヲ請求スルコト能ハサル債務者ノ行爲ヲ取消ヲ請求スルコトヲ得、但シ債務者ノ破産宣告以後ニ於テ其行爲ヲ取消ヲ請求スル權利ハ破産手續繼續

中破産債権者團體ニ屬シ破産債権者各個人ニ屬スル相手方ノ義務及給付
破産債権者團體ニ對シテ之ヲ爲シ破産債権者各個人ニ對シテ之ヲ爲スヘキ
ノニアルニ是レ破産宣告以後ニ於ケル廢罷訴權即チ取消權及既往關スル破
産宣告ノ效力タル所以ナリ債務ヲ完済スルニ不十分ナル財産ヲ有スルニ止
ル債務者カ其財産ニ關スル處分權アルヲ寄貸トシ之ヲ濫用シ以テ債権者ニ損
害ヲ被ラシムルカ如キ行爲ニ基タ不法ナリト謂ハサルヘカラス殊ニ破産ニ滯
スル債務者カ其財産ノ管理及ヒ處分權ヲ喪失セサルニ乘シ之ヲ濫用スルカ爲メ
ニ百方策ヲ講シ特別ノ權利行爲ヲ爲シ財産ヲ減少シ債権者ニ其債権ノ満足ヲ
享有スルコトヲ害スルカ如キ事項ハ最も不法ナリト謂ハサルヘカラス何トナ
レハ斯ル債務者ハ縱令其財産ニ付キ管理及ヒ處分權ヲ有スト雖モ該財産ハ各
債権者ノ共同満足ノ用ニ供スヘキモノナルヲ以テ其債権者ノ總員又ハ一員ニ
損害ヲ生スヘキ效力アル權利行爲ヲ爲ササルノ義務ヲ負ヘハナリ又斯ル債務
者ト其情ヲ知リテ取引ヲ爲シタル相手方ハ之ニ因リテ損害ヲ受クベキ債権者
ニ對シテ不法行爲ヲ爲セタルモノナリ又其情ヲ知リテ取引ヲ爲シタル

相手方ニシテ無償ニテ財産ヲ取得スルモノナルトキハ損害ヲ避ケント欲スル
破産債権者ヨリモ保護スヘキノ謂レナシ故ニ破産債権者團體ノ爲メニ破産宣
告以前ニ於テ爲シタル破産者ノ權利行爲ノ取消ヲ許スル正當トス
民法上ノ廢罷訴權民法第四二四條ハ要件嚴格ニシテ廢罷困難ナリ而シテ破産
ニ滯スル債務者カ其宣告ヲ免レンカ爲メニ債権者ヲ害スヘキ行爲ヲ爲スノ嫌
疑アルハ發熱ノ疾病ニ於ケルカ如シ故ニ民法上ノ取消權ヲ以テ斯ル債務者ノ
權利行爲ニ對シ破産債権者ヲ保護セントスルハ本ニ緣リテ魚ヲ求ムルカ如シ
是ニ於テカ各國ノ破産法ニ於テ精粗寬嚴ノ區別アリト雖モ特ニ破産ニ於ケル
廢罷訴權ヲ規定シタル佛蘭西商法第四六六條以下白耳義商法第四四五條以下
英吉利破産法第四三條、第四七條、第四九條等、和蘭商法第七三條以下、獨逸破
産法第二九條以下佛法學者ノ所謂嫌疑時代獨法學者ノ所謂破産ニ於ケル廢罷
訴權ナルモノ即チ是ナリ
之ヲ要スルニ破産法ニ於ケル廢罷訴權ハ民法ニ於ケル廢罷訴權民法第四二四
條ノ擴張ニ外ナラス

我商法ハ此點ニ於テ主トシテ佛蘭西商法ニ基キ (一) 當然無効ノ行為第九九〇條 (二) 取消スコトヲ得ヘキ行為第九九一條 (三) 登記ノ無効第九九二條ニ關スル規定ヲ設ケタリ左ニ之ヲ分説スヘシ

(一) 當然無効ノ行為

支拂ノ停止後又ハ支拂ノ停止前三十日內ニ於テ爲シタル破産債權者ニ損害ヲ及ホスヘキ債務者ノ法律上特定シタル行為ハ財團ニ對シ當然無効ナリ第九九〇條佛蘭西商法第四四六條第一項獨逸破産法第三〇條

支拂ノ停止以後ノ行為ノミナラス支拂ノ停止以前三十日內ノ行為ヲモ嫌疑時代ノ行為ト認メタルハ詐害行為ヲ豫防スルノ注意ニ基ケリ現行佛蘭西商法第四四六條第一項及ヒ白耳義商法第四四五條ハ支拂ノ停止前十日內ノ行為ヲ嫌疑時代ニ屬スル行為ト認メタレトモ伊太利商法第七〇七條及ヒ一八八三年佛蘭西商法改正案ハ支拂ノ停止以後ノ行為ノミヲ嫌疑時代ニ屬スル行為ト認メタリ

(A) 要件 當然無効ノ行為タルニハ第一ニ支拂ノ停止後又ハ其前三十日內ニ爲シタル破産者ノ行為ナルコトヲ要ス

斯ル時期即チ破産宣告ヲ爲スヘキ事情カ成熟スル時期ニ於テ爲シタル債務者ノ行為ハ其意思ノ善惡ニ拘ラス債權者ニ損害ヲ及ホスヘキ特色アルヲ當然トス是レ法律カ斯ル時代ニ於ケル債務者ノ行為タルコトヲ必要ト爲ス所以ナリ而シテ破産宣告以後ニ於ケル破産者ノ行為ハ破産債權者自體ニ對シ無効ナルヲ以テ茲ニ所謂破産者ノ行為カ破産ノ宣告以前ニ於ケルモノタルコトヲ要スルハ言フ塊タナル所ナリ獨逸破産法第二九條第一項破産者ノ行為カ民法上無効ナルトキハ商法第九百九十條ノ適用ナカルヘシ斯ル行為ハ無効ナルヲ以テ當然無効ノ法則ヲ適用スヘキ目的物ナケレハナリ然レトモ破産者ノ行為ニ關シ執行上ノ債務名義カ存在シ若クハ該行為カ強制執行又ハ假差押ニ依リテ履行セラレタル事情ノ爲メニ當然無効ノ法則ノ適用ヲ妨ケス蓋シ執行上ノ債務名義ハ唯債務者及ヒ債權者間ニ於テノミ效力ヲ有スルニ過キサレハナリ(獨逸破産法第三五條)

第二ニ破産者ノ行為カ債權者ニ完済ヲ得セシメタルノ原因ト爲ル意味ニ於テ債權者ヲ害スルモノタルコトヲ要ス何レハ斯ル行為ノ存在スルモ債權者

破産手續ニ於テ完済ヲ受クルコトヲ得ルニ於テハ當然無効ノ法則ヲ適用スルノ必要ナクハナリ
債権者ノ損害ハ破産者ノ行為ニ因リテ發生スルコトヲ要スル損害ハ破産者カ破産財團ニ屬スル財産ヲ處分シ若クハ之ニ他物權ヲ設定シ或ハ破産債權ト競合スヘキ債權ヲ成立セシムルニ因リテ發生ス故ニ差押フルコト能ハサル請求ノ拋棄若クハ讓渡及ヒ破産手續ニ於テ主張スルコト能ハサル債權ノ發生行為ハ當然無効ト爲ラス如何ナル請求權カ差押フルコト能ハサルヤ主トシテ民事訴訟法ニ從ヒテ之ヲ定メ如何ナル債權カ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得タルヤハ破産法ニ從ヒテ之ヲ定ム(獨逸破産法第三條第六三條又破産債權者ヲ害セス單ニ之ヲ利セサルニ止マル破産者ノ行為亦然リ故ニ財産ヲ増加スヘキ贈與若クハ相續等ニ關スル破産者ノ拒絕ハ當然無効ト云フヘカラス但シ破産者カ贈與若クハ相續ノ承諾ノ結果カ破産債權者ヲ利スルニ止マルコトヲ豫知シ自己ノ拒絕ニ因リテ代リテ權利ヲ承繼スル者トノ契約ニ基キ之ヲ自己ニ特定ノ利益ヲ給付セシメ以テ破産債權者ニ贈與若クハ相續等ノ承諾ヨリ生

スル利益ヲ奪フカ如キ法律ノ適用ヲ避クル目的ヲ以テ爲シタル破産者ノ拒絕ハ此限ニ在ラサルヤ言フ俟タス
第三ニ破産者ノ行為ハ其效力トシテ或人カ破産者ノ損害ニ於テ財產權ヲ取得シ若クハ財產的義務ヲ免責スルモノナルコトヲ要ス蓋シ斯ル行為ニアラスンハ破産債權者ニ損害ヲ來タスコトナクハナリ法律ハ此行為ニ屬スル種類ヲ制限的ニ列記シ以テ解釋上ノ爭論ヲ絶タント欲シタリ
(a)無償行為及ヒ之ニ同視スヘキ有償行為無償行為即チ破産者カ自己ノ財產ヲ損害ニ於テ他人ヲ利得セシメント欲スル意思ヲ以テ爲シタル行為ハ其當時破産者カ己ニ無實力ナルカ若クハ之ニ因リテ無實力ト爲リシカヲ問フコトナク又破産者及ヒ其相手方ノ意思ノ善惡ニ拘ラス當然無効タリ故ニ贈與寄附無償の他物權ノ設定無償の物權ノ拋棄若クハ其順位ノ拋棄債權ノ無償讓渡債務免除無償の義務負擔無償の持分ノ拋棄等ハ之ニ屬ス然レトモ慣習上行使スル運物ノ如キモノハ當然無効タルヘキ贈與ニ屬セス蓋シ債務者ノ資產ニ相當ニ且ツ慣習上ノ價格ヲ超スナルモノハ破産債權者團體ヲ害スル意思ヲ以テ爲シ

タル贈與ト認ムルコト能ハナリ(獨逸破産法第三二條第一及第二又義務ノ履行及ヒ其擔保亦當然無効タル債權者無償行為ニアラス蓋シ破産者ノ爲ニタル他人ノ債務ノ履行若クハ其擔保ハ其他人ニ對シテハ贈與タル性質有スト雖モ債權者ニ對シテハ贈與ニアラサレハナリ但シ贈與ハ負擔附若クハ附恩ノ爲メニスルモノト雖モ當然無効タルニ妨ナク又破産者ノ爲メタル嫁資設定ハ一ノ無償行為タルニ妨ナシ蓋シ設定者ハ何等ノ對價ヲ受クルコトナク財產ヲ夫又ハ婦ニ與ウルモノナレハナリ又ハ破産者ノ爲メタル無償行為破産者カ自己ノ財產ノ損害ニ於テ他人ヲ利得セシメント欲スル意思ヲ以テ爲シタル無償行為ト同視スヘキ有償行為即チ破産者ノ受領スヘキ對價カ其移轉スヘキ目的物ノ價額ニ比シ甚シク低廉ナル行為ノ例ハ金千圓ノ實價アル土地ヲ金一圓ニテ賣却スルカ如キ行為ハ當然無効タリ第九九〇條第一項獨逸破産法第三二條佛蘭西商法第四四六條第二項白耳義商法第四四五條伊太利商法第七〇七條第一號瑞西破産法第二八六條等(意義)

此等ノ行為カ詐害の要素即チ(1)債權者ノ詐害意思(2)相手方カ債務者ノ詐害意

思アルコトヲ知ルコト及ヒ(3)債權者カ受ケタル損害民法第四二四條ノ要素ヲ具備シタル場合ニ於テハ詐害行為トシテ之ヲ當然無効ト爲スハ敢テ不可ナキニ似タレトモ相手方カ善意ナルカ若クハ破産者カ支拂停止前三十日內ニ於テ詐害ノ意思ナクシテ贈與等ヲ爲シタル後ニ於テ不幸ニモ支拂停止シタルノ事實明瞭ナルニモ拘ラス斯ル行為ヲ詐害行為トシテ無効ト爲スハ甚タ失當ナリ二三ノ學者ハ反證ヲ許ササル詐害の推定ヲ立法上ノ理由ナリトシ行為自體ノ性質上動スヘカラサル詐害ノ嫌疑アルヲ以テ當然無効ナリト説明スレトモ予輩ハ探ラサル所ナリ斯ル行為ヲ當然無効ト爲ス法意ハ詐害ニ存セスシテ避ケントスル債權者ヲ無償ニ若クハ殆ト無償ニ利得ヲ得ント欲スル者ヨリ保護スルヲ公平ニ適スト爲ス觀念ニ存スト認ムルヲ正當ノ見解ト信ス故ニ法律ハ斯ル行為ノ當時ニ於ケル破産者ノ資力ハ有無及ヒ當事者ノ意思ノ善惡ヲ問ハズルナリ(理由)

其後ハ行爲ノ取消ノ意思ヲ表示セシメタル債權者ハ破産者ノ破産ノ嫌疑時代以前ニ於テ成立シタル行為ハ有效ニ存在シ該時代中ニ成立シタル行為ハ當然無効ト爲ル故ニ行為成立期ヲ確定スルハ實際上頗ル必要ナリ而シ

破産者ノ行為ニ嫌疑時代以前ニ完成シ又ハ其時代中ニ始終シタル行為ニシテ却テ兩時代ニ跨ル行為即チ嫌疑時代以前ニ言込アリテ其時代中ニ承諾アリタル贈與其他ノ行為ハ承諾ノ意思ヲ表示シタルトキニ成立スルヲ以テ嫌疑時代中ノ行為ニ屬シ當然無効ト爲ル然レトモ不動産權ヲ目的トスル法律行為ニ關スル登記及ビ債權讓渡ニ關スル通知若クハ其承諾ノ如キハ第三者ニ對シテ公示方法若クハ對抗條件ニ過キサルヲ以テ該行為ノミテ嫌疑時代中ニ爲タルガ爲メニ不動産權ヲ目的トスル法律行為及ビ債權讓渡ヲ當然無効ト認ムルコトヲ得サルヘシ蓋シ該行為ハ嫌疑時代以前ニ於テ既に當事者間ニ完成シタルハナリ

(b) 期限ニ至ラサル債務ノ支拂及ビ期限ニ至リタル債務ノ代物辨濟ノ辨濟スヘキ時期ニ於テ爲サス又ハ辨濟スヘキ方法ニ於テ爲ササル債務ノ辨濟ハ當然無効ナリ期限ニ至ラサル債務ノ支拂トハ破産者カ債權者中ノ一人ニ特別ノ利益ヲ授與スル意思ヲ以テ爲シタル未タ支拂時期ニ達セサル若クハ條件附ナル債務ノ支拂ナリ該意思ハ他ノ債權者ヲ害セント欲スル意思ト同シカラス破産者

カ債權者中ノ一人ヲ他ノ若ヨリ利益セシメント欲スル意思ハ他ノ債權者ヲ害セント欲スル意思ナクシテ有スルコトヲ得故ニ破産者ニ他ノ債權者ヲ害スルノ意思ナカリシ旨ノ事實ニ依リテ或債權者ヲ特別ノ利益セント欲スルノ意ナキモノト述斷スルコトヲ得ス債務ノ性質上ノ區別民事若クハ商事又ハ其發生原因上ノ區別法律行為若クハ不法行為之ヲ問ハス蓋シ斯ル區別ニ依リテ等ラ説タルハ破産ノ骨子タル平等ヲ害スルヲ以テナリ其他支拂其モノカ當然無効ナルニ止マルヲ以テ債務ノ辨濟期ニ至リタルヤ否ヤヲ定ムル標準ハ支拂ヲ爲シタル時期ニ外ナラス故ニ支拂ヲ爲シタル時期カ支拂ヲ爲スヘキ時期以前ナルトキハ支拂ヲ爲スヘキ時期カ破産宣告以前ニ到達スル場合ト雖モ支拂ノ當然無効タルヲ妨ケス然レトモ支拂ヲ爲シタル時期カ支拂ヲ爲スヘキ時期以後タリシ場合ニ於テハ假令支拂ヲ爲スヘキ時期カ嫌疑時代中ニ到達シタル場合ト雖モ支拂ハ當然無効ト爲ラヌ又當然無効ナルモノハ支拂其モノニ對シテ債務關係ニテアラサルヲ以テ債務關係ノ發生原因カ嫌疑時代以前ニ在ルハ其時代中ニ在ルトハ之ヲ問ハサルナリ交互計算ハ其性質上ニ定期間毎ニ計算スルモノナ

ナレハ破産者ト爲ルヘキ當事者一方カ交互計算ノ關係アル他ノ一方ニ資金ヲ給付シタルモ爲メニ支拂期前ニ支拂ト爲ラス何トカレハ交互計算中ノ當事者間ニ債權及ヒ債務ナク唯貸方及ヒ借方アルノミナラバ以テナリ破産者カ爲シタル支拂期前ノ支拂ニアラスシテ却テ債權者タル破産者ニ對シテ爲シタル支拂期前ノ支拂ハ當然無効ト爲ラス唯商法第九百九十一條ノ規定ニ基キ特定ノ要件ノ下ニ於テ取消ナルコトアルニ過キス

期限ニ至リタル債務ノ代物辨濟即チ債務者カ債權者中ノ一人ヲ特別ニ利益セシムルカ爲メニ其同意ヲ得テ從來負擔シタル債務ノ目的タル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲スニ因リテ債務ヲ消滅スル行爲ハ當然無効ナリ辨濟スヘキ方法ニ於テ爲ササル支拂民法第四八二條如何ナル行爲カ代物辨濟ト爲ルヤハ事實問題トシテ裁判官ノ定ムル所ナレトモ現金ノ給付ニ代ヘテ爲ス手形公債株券等ノ如キ金錢ノ代表物ノ給付ハ支拂ニシテ代物辨濟ニアラス寄託物ノ預證券等三五八條ノ如キ金錢ヲ代表セサルモノノ給付ハ代物辨濟ニシテ支拂ニアラスト信ス期限ニ至ラサル債務ノ代物辨濟ニ關シテハ法律上明文ナシト雖モ當然

無効タルコトハ期限ニ至リタル債務ノ代物辨濟ヲ當然無効ト爲ス法意ニ依リテ明白ナリ代物辨濟ニ類似スルノ行爲殊ニ代金ヲ利得ノ用ニ供スル目的ヲ以テ債務者カ其破産財團ニ屬スル物件ヲ債權者ニ賣却シタルカ如キ行爲亦當然無効タルヘシ(意義)

新ル行爲ヲ無効ト爲ス理由ハ債務者ハ之ニ因リテ特種ノ債權者ヲ利シ又債權者ハ之ニ因リテ破産手續ニ於ケル些少ノ配當額ヲ受タルコトアルヘキ危險ヲ避ケント欲シ平等ノ原則ヲ亂ルヲ以テナリ殊ニ支拂期ニ達シタル債務ノ支拂ハ法律上正當ノ行爲ニシテ債權者ハ其正當ナル給付ヲ受ケ債務者ハ完全ナル處分能力者トシテ其義務ヲ正當ニ履行シ特種ノ債權者カ債務者ノ支拂停止ヲ知ラサル以上ハ第九九一條有效ナレトモ支拂期ニ達シタル債務ノ代物辨濟ハ債權者カ辨濟トシテ受領スヘキ義務ナキ給付ヲ破産者タルヘキ債務者ヨリ受領シタルモノナラバ以テ債務者ト特約上自己ノミニ完済セシメント欲スル不正行爲タル嫌疑甚シキヲ以テナリ獨逸破産法第三二條第二項廢罷新權ノ觀念トシテ債權者カ債務者ニ特別ニ授益スルヲ意思アルコトヲ知ル旨ヲ要件ト爲シタル理由

(6) 從來負債シタル債務ノ爲メニ新ニ供スル擔保ニ千八百七年ノ佛蘭西商法第四百四十三條ニ於テハ嫌疑時代ニ取得シタル先取特權者ヲ抵當權ヲ無効ト爲シタルヲ以テ物の擔保ヲ要件トシテ成立シタル法律行為ニ關シ行爲其モハハ有效ニ存續シ物の擔保ノミカ無効ト爲ルノ結果ヲ生シ大ニ當事者ノ意思ニ反シ嚴密ニ失シタリ蓋シ斯ル法律行為ハ當事者ノ意思ニ從ハハ不可分の一體ヲ成ス行為ナルヲ以テ物の擔保ハ主タル債權關係ト其運命ヲ共ニスヘク隨テ前者ノミヲ無効ト爲シ後者ヲ有效ニ留存セシムルハ當事者ノ意思ニ反シ且テ債權者ヲ期待スルモノト云フヘケレハナリ是ヲ以テ千八百三十八年佛蘭西現行商法第四百四十六條ハ之ヲ改正シ從來負債シタル債務者ノ爲メニ新ニ供シタル抵當權及ヒ質權ノミヲ無効ト爲シタル各國ニ於テ亦之ニ基キ大同小異ノ立法ヲ爲シタルヲ獨逸破産法第三〇條白耳義商法第四四五條英吉利破産法第四八條瑞西破産法第二八七條和蘭商法第七七四條西班牙商法第一〇三九條義商法亦然リ(第九九〇條)取捨ハ新ニ供スル擔保トハ債務者ノ擔保設定ノ請求權從來負債シタル債務ノ爲メニ新ニ供スル擔保トハ債務者ノ擔保設定ノ請求權

ヲ有セサル特種ノ債權者ヲ利スルノ意思ヲ以テ之カ爲メニ破産財團ニ屬スル財産上ニ設定シタル質權抵當權ノ如キ總テ物の擔保ヲ指示ス道ハ後述ノ如ク此種ノ擔保設定行為ヲ當然無効ト爲ス法意ヨリ生スル論點ナリ故ニ(1)債務者カ新ニ保證人ヲ立テ又ハ他ノ連帶債務者ヲ加フルカ如キ人。的。擔。保。行為ハ他ノ破産債權者ヲ害スルコトナキヲ以テ當然無効ト爲ルコトナシ又債務者ノ設定ニ係ラスシテ即チ當事者ノ意思ニ關係ナク法律ノ規定ニ因リ特種債權關係ト共ニ當然發生スル擔保殊ニ先取特權ノ如キハ特種ノ債權者ヲ害シ又他ノ特種ノ債權者ヲ利スルノ嫌疑ノ存スルモノニアラサルヲ以テ當然無効タルノ理ナシ但レ先取特權ノ原因アル行為自體カ商法第九百九十條、第九百九十一條ニ依リ攻撃セラレタルトキ其先取特權亦共ニ消滅スルヲ埃タス(2)債務者カ新ニ供シタル擔保ニアラスシテ第三者カ新ニ供シタル擔保(民法第三四二條第三六八條)當然無効ト爲ルコトナシ蓋シ斯ル擔保ハ債務者カ特種ノ債權者ヲ利スルモノト云フコト能ハサルナリ(第九九〇條)破産者カ新ニ供スル擔保……(3)從來負債シタル債務ノ爲メニ新ニ供シタル擔保ニアラスシテ債

務關係ノ成立ト同時ニ若クハ其以前ニ供タル擔保官吏公吏ノ身元保證金
如キ明治二十三年勅令第六號會計規則第一〇三條乃至第一〇五條等並考銀行
營業者間ニ行ハルル根抵當ノ如キ未決算ハ交互計算ニ於テ支拂ヲ擔保スルカ
爲メニ設ケタル擔保ノ如キ豫メ金錢的債務ノ支拂ヲ保スル擔保ノ類ニ當然無
効ト爲ラス蓋シ斯ル種類ノ擔保ノ提供ハ債務關係ノ成立要件ナルヲ以テ特種
ノ債權者ヲ利スル債務者ノ行爲ニアラスシテ却テ債務者ノ正當ナル義務履行
タルノミナラス主タル債務ト其運命ヲ共ニスヘキカ故ニ獨リ擔保ノミヲ無効
ト爲スコトヲ得サレハナリ又主タル債務關係カ嫌疑時代ニ成立シタルカ爲メ
ニ之ト同時ニ提供シタル擔保ヲ當然無効ト爲スコトヲ得ス唯此主タル債務關
係カ商法第九百九十條第九百九十一條ノ適用ニ基キ無効ト爲リ若クハ取消ナ
ルト同時ニ無効ト爲リ又ハ取消ナルルヲ以テナリ蓋シ債務關係カ擔保提供以
前ニ既ニ成立シタルコトノミカ當然無効ノ原因タルヲ以テナリ(4)主タル債務
關係ノ成立ト同時ニ擔保ヲ供シタルトキニアラヌシテ唯之ヲ供スルコトヲ豫
約シ該約ニ基キ爾後擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ當然無効ナルヤ否ヤ擔保

シタル土地又ハ開墾鐵下年期開拓鐵下年期地價據置年期ヲ有スル土地ハ事業
著手ノ際其他ノ現況ニ依リ地價ヲ修正シ新開墾租年期ヲ有スル土地ハ事業著
手ノ際其地ノ現況ニ依リ地價ヲ設定スヘキモノトス(明治三十年法律第三十九
號第三項第一號地租條例ニ依レハ此ノ如キ土地ハ變換等ノ如キ事由アリタル
年ヨリ五年以內六年目若クハ十年目又ハ八年期明ノ年ニ於テ其時ノ現況ニ依リ
地價ノ修正又ハ設定ヲ爲スヘキモノナリト雖モ改良ヲ施行スル場合ニ於テハ
地租條例ノ規定ニ依ラス事業著手ノ際其時ノ現況ニ依リ地價ノ修正又ハ設定
ヲ爲スヘキモノナリ而シテ明治三十年大藏省令第十九號ハ此場合ニ於テ土地
所有者ヨリ地價ノ修正又ハ設定ニ付キ特ニ申告等ヲ爲スヘキコトヲ定メタル
ヲ以テ當該官處ハ土地改良ノ爲メ區畫形狀ノ變更ヲ爲スノ出願ニ對シ許可ス
ル場合ニ於テ其改良施行地内ニ右ノ如キ土地アルトキハ自ラ進メテ地價
修正又ハ設定ノ手續ヲ爲ササルニ力ヲ盡スルモノトシテ其地價ノ修正又ハ設
定ニ有ニ依リ地價ヲ修正シタル土地ハ地目又ハ地類變換ヲ爲シタルモノハ變
換後六年目開墾ヲ爲シタルモノ無シテ鐵下年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ開

墾著手後十年目銀下年期若クハ地價據置年期有スルモノハ年期明ニ至リ給
メテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルキモノニシテ其以前ニ於テハ從前地價
依リ地租ヲ徵收スヘキモノトス其地價ヲ設定シタル土地ニ付テモ然リ年期
中ハ地租ヲ徵收セス年期明ノ翌年ヨリ設定地價ニ依リ他租ヲ徵收スヘキモノ
ナリ明治三十年法律第三十九號第三項第二號改良施行地ハ事業著手後ニ於テ
ハ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ著手ノ際之カ修正又ハ設定
ヲ爲スモノナリト雖モ著手前ノ事由ニ因リ既ニ一定ノ年間ハ從前ノ地價ニ依
リ地租ヲ徵收シ又ハ全ク之ヲ免スヘキモノト爲リタル土地ニ對シ改良施行ヲ
爲スカ爲メ便宜地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルノ故ヲ以テ直チニ修正又ハ設
定シタル地價ニ依リ其地租ヲ徵收スルコト爲ストキハ所有者ハ土地ノ改良
ヲ爲スカ爲メ却テ多クノ場合ニ於テハ既得ノ利益ヲ失フコト爲リ土地改良
ヲ獎勵スル所以ノ趣旨ニ適セサルヲ以テ此ノ如キ土地ハ地價ヲ修正又ハ設定
スルモ直チニ之ヲ適用セス地租條例カ豫期シタル年限ニ至リテ始メテ之ヲ適
用スヘキモノト爲シタルナリ

三 事業竣功シタルニ依リ毎筆ノ地價ヲ定ムルカ爲メ現地價ノ合計ヲ爲ス場
合ニ於テ地目若クハ地類ノ變換後五年開墾著手後九年ヲ經過セタル土地又ハ
銀下年期地價據置年期有スル土地ニ付テハ事業著手前又ハ著手ノ際修正シ
タル地價新開免租年期有スル土地ニ付テハ事業著手ノ際設定シタル地價寬
地免租年期又ハ低價年期有スル土地ニ付テハ原地價ヲ以テ現地價トシ合計
額ノ計算ニ加フヘキモノトス明治三十年法律第三十九號第三項第三號蓋シ竣
功ノ土地ニ付スル地價ハ爾後永遠ニ地租ノ標準タルヘキモノナルヲ以テ土地
ノ最近ノ狀態ニ依リテ定メタル地價又ハ被害前ノ狀態ニ於ケル地價ヲ以テ之
カ計算ノ基礎ト爲スル明治三十年法律第三十九號ノ精神ヲ失ハスシテ地租條
例ノ大體ノ趣旨ヲ全ウスルモノト謂フコトヲ得ヘシ

四 改良施行地内ニ事業竣功ノ時尚ホ地目若クハ地類ノ變換後五年開墾著手後
九年ヲ經過セタル土地又ハ年期滿了セタル土地アル場合ト雖モ其修正地價設
定地價又ハ原地價ヲ以テ現地價ノ合計額ヲ計算シ之ヲ每筆ニ分配シテ其地價
ヲ定ムヘキコト右ニ説明スル所ノ如シ而シテ事業竣功ヲ告ケ其每筆ノ地價確

定タルトキ之ニ依リテ地租徴収セシメ勿論ニシテ隨テ舊區城ニ對シ觀
換後五年、開墾著手後九年又ハ毎期中ハ從前ノ地價又ハ低減セタル地價ニ依リ
地租ヲ徴收シ若シ全ク地租ヲ徴收セスト爲シタル法律上ノ效力ハ自ラ消滅
スヘキモノト謂ハサルヘカラス明治三十年法律第三十九號第三項第二號但書
然レトモ元來明治三十年法律第三十九號土地改良ノ獎勵スルノ趣旨ヲ以テ制
定セラレタルモノナルヲ以テ所有者ヲシテ土地改良ノ爲メ既得ノ法律上ノ利益
ヲ失ハシムルカ如キハ其精神ニ適合セザルモノナリ唯事業成功ノ後ニ至リ尚
本種租ノ年期又ハ修正地價不適用ノ期間ヲ存セシムルコトハ事實ノ許サザル
所ナルヲ以テ法律ハ其自ラ消滅ニ歸スヘキコトヲ定メテ同時ニ之カ代價ト
シテ改良施行地内ノ土地所有者カ得ヘカラン利益即チ免除セタル地價カ地
租額又ハ從前ノ地價ニ依リテ地租ト修正地價ニ依リテ地租トノ差額若シハ低減地
價ニ依リテ地租ト原地價ニ依リテ地租トノ差額ハ幾年期間毎年之ヲ土地所有者
與フルカ爲メ事業關係者ヲシテ其協議ヲ以テ利益ヲ受クヘキ土地並ニ其土地
ニ對シテ與フヘキ利益ノ金額ヲ定メ政府ニ申告セシメ其年間ハ其土地ノ地租

額中ヨリ其受クヘキ金額ヲ控除シテ納ムルコトヲ得セシメタリ明治三十年法
律第三十九號第三項第四號既ニ年期又ハ修正地價不適用ノ期間ノ消滅ノ爲メ
利益ヲ失フヘキ場合ニ於テ之カ代價ヲ與フルヲ可ナリトセハ修正地價不適用
ノ期間消滅ノ爲メ却テ利益ヲ得ヘキ場合即チ修正地價カ從前ノ地價ヨリ低カ
リシ場合ニ於テハ其差額ハ所有者ヲシテ之ヲ負擔セシメテ可ナルヲ以テ明治
三十年法律第三十九號第三項第四號ハ此場合ニ於テハ事業關係者ハ負擔ヲ爲
スヘキ土地及ヒ其金額ヲ協定シ之ヲ政府ニ申告スヘキモノト爲シタリ而シテ
右號レノ場合ニ於テモ事業關係者ノ協議調ハサルトキハ實地ノ情況ヲ案シ政
府ニ於テ公平適宜ニ之ヲ定ムヘキモノトス明治三十二年法律第八十二號ヲ以テ耕地整理法ヲ定メ
耕地ノ整理ニ關シテハ明治三十二年法律第八十二號ヲ以テ耕地整理法ヲ定メ
テ附テ整理施行地ニ付テハ地租條例其他地租ニ關スル法令ノ特例ヲ爲スモ
ノアリト雖モ耕地整理法第一條及ヒ第二條ハ之ヲ第三十年法律第三十九號第
一項及ヒ第二項ニ比スルニ其規定ニ細粗ノ別アルモノニシテ其趣旨ハ殆ト同
一ニ歸スルモノノ如シ特ニ耕地整理法第十五條ハ整理ヲ施行シタル土地ノ地

假ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ムヘキコトヲ規定スルカ故ニ上來述ヘタル所ハ悉ク整理施行地ニ適用セラルルモノトス故ニ整理施行地ニ關シ更ニ説明ヲ爲スコトハ之ヲ省略スヘシ

第九款 罰則

地租ニ關シ罰則ヲ定ムルモノハ獨リ地租條例アルノミ而シテ地租條例ハ左ノ場合ニ於テ土地所有者ヲ罰金又ハ科料ノ刑ニ處スヘキコトヲ定ム

- (イ) 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱シタルトキ(地租條例第二十五條)
- (ロ) 地方廳ノ許可ヲ受ケスシテ免租地ヲ有租地ト爲シタルトキ地租條例第二

六條

- (ハ) 届出ヲ爲ナスシテ地目變換ヲ爲シタルトキ地租條例第二七條
- (ニ) 届出ヲ爲ナスシテ地目變換ヲ爲シタルトキ(同上)
- (ホ) 届出ヲ爲ナスシテ開墾ヲ爲シタルトキ(同上)

地租條例カ土地欺隱罪ヲ規定シタルハ予ノ其理由ヲ解スルモ苦ム所ナリ土地

欺隱罪ナルモノハ新ニ檢地ヲ爲スカ如キ場合ニ於テ巧ニ當該官吏ヲ欺キ土地ノ檢按ヲ免ルルニ因リテ成立スルモノナリ地租條例ハ檢地ヲ有スヘキ場合ヲ定ムルコトナシ故ニ土地ヲ欺隱スヘキ場合ヲ生スルコトアルヘカラサルカ如シ若シ強テ場合ヲ想像スレハ地價ヲ定メ又ハ之ヲ修正スヘキ場合ニ於テハ當該官吏ハ實地ニ臨ミ土地ヲ丈量シ其地價ヲ評定スヘキモノナルカ故ニ當該官吏カ土地ノ丈量地價ノ査定ヲ爲サントスルニ當リ申告書ニ土地ノ一部ヲ除キテ記載シ實地檢査ノ場合ニ於テ其除キタル部分ハ他筆ニ屬スルカ如キ申立ヲ爲シ之ニ依リテ地價ノ査定ヲ免レタル如キ場合ニ於テ欺隱罪成立スト謂フコトヲ得ヘキカ然レトモ土地臺帳ヲ設ケ地租ニ關スル登錄ヲ爲シ且ツ地圖ヲ以テ土地ノ位置形狀ヲ明カニスル今日ニ於テ所有者カ申告書ヲ詐リ又ハ實地ニ於テ不正ノ申立ヲ爲スヲ以テ土地欺隱罪ナリト謂フハ立法論トシテハ未タ盡テタル所アルヲ免レサル如シ

前ニ舉ケタル(イ)(ロ)(ホ)ノ場合ニ於テハ發覺ノ際現地目ニ依リ地價ヲ設定シ又之ヲ修正シ其地租又ハ地租ノ増差ヲ追徴スヘキモノナリ但シ發覺ノ日ヨリ

三年以前ニ溯ルコトヲ得サルモノトスハ(三)ノ場合ニ於テ其地價ヲ修正スルモ
作ラハ届出ヲ爲シタル場合ト異ナルコトナシ但テ事實變換ヲ爲シタル年ヨリ
六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ發覺ノ時現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其年
ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキコト前條ニ述ヘタル如シモハ未ダ
借地人又ハ小作人ニ於テ前掲ノ犯則行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者其情ヲ
知ラサルトキハ借地人又ハ小作人ニ對シ第二十五條乃至第二十七條ノ制裁ヲ
適用スヘキモノトス但シ地租ハ之ヲ所有者ヨリ追徵スルモノトス(地租條例第
二八條)所有者其情ヲ知リタルトキハ無論所有者其人ノ犯則トシテ所有者
ヲ罰シ借地人又ハ小作人ハ之ヲ罰スヘキモノニアラサルコトハ第二十八條ノ
規定ノ反面ニ於テ疑ヲ容レサル所ナリト雖モ所有者ニシテ情ヲ知ラサルトモ
ハ之ヲ罰スルコトヲ得ス而シテ若シ此ノ如キ場合ニ於テ何人モ所罰セラルル
コトナシトセハ所有者ニ往々犯則ヲ敢行シ偶々發覺シタルトキハ之ヲ借地人
又ハ小作人ノ所爲ニ籍口シ制裁ヲ免ルルノ弊ヲ生スヘキ故ニ借地人又ハ小
作人ノ所爲ナルコト明カナルモ之ヲ處罰スルコト爲シ以テ無制裁ニテ

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滞一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一个年ヲ以テ完了セサルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係トス(シ)

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十四年三月六日印刷

明治三十四年三月十日發行

編輯者 東京市四谷區四谷仲町三丁目三十八番地
小田幹治郎

印刷者 東京市芝區西ノ久保町九町十一番地
金子鐵五郎

印刷所 東京市芝區西ノ久保町九町十一番地
金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)